

対決姿勢を強化

——戦後帝大新聞史(5)——

河内光治

昭和六十二年八月二十一日受理

【要旨】昭和二十三年度に入ると、学生運動は急激な転回を見せる。授業料値上反対の不払運動、同盟休校、これらを含めて教育復興闘争として、新学制への移行を控えての理事会法、私学法、大学法への反対運動の展開である。そして、夏休み明けの九月十八日に、官公私立大学高専自治会の統一体として全国学生自治会連合（全学連）が結成される。編集部も、新一年生の参加を得て、連帯意識を確認してその一翼を担うのであるが、八月以降、用紙問題と新聞出版会への移行という難問に見舞われ、戦線を離脱するの止むなきに至る。十一月に編集部を中心にストライキが敢行され、年末に八頁の終刊号を出して終止符を打つことになる。この間に、昭和電工事件から十月七日芦田内閣は総辞職し、十月十九日に第二次吉田内閣が成立する。この終刊の経緯は次回に纏めることにし、昭和二十三年度の編集の足跡を追うことにする。

昭和二十三年四月—十二月（1067号—1100号）

概観

三月末に卒業した者は既に一線を退いていた金原元と鈴木健二の二名である。恒例により、新入生の中から編集部員が公募され、小論文の審査、面接を経て、七名が採用された。植草治郎（一高・昭23・農・畜産、昭26・経・経済）、佐藤竺（浦和・昭26・法・政治）、鈴木平八郎（山形・

昭26・文・哲学）、奥山達（外語・昭26・文・仏文）、関根智明（一高・昭26・二工・精密）、浅井健一（八高・昭26・経・経済）、市村寿一（大阪・昭26・経・経済）である。主力の二期生が全員翌三月に卒業する予定であり、三期生が木村と山本の二人だけなので、大幅に戦力を補強する必要に迫られていたのである。この復刊四期生は、終刊後、自治会の許で発行された学生新聞の主力となった人達であるが、市村、浅井の両君は卒業後間もなく亡くなられたとのことである。

桜井常務理事、長谷川編集局長、仲尾編集長という態勢に変更の余地は無かったが、実務の中心を木村と山本に移すようにし、二期生は一步退いてその外周を固めることになった。仲尾の本部廻りに木村が付き、文部省担当は河内から山本が引き継ぎ、学内の担当も新一年生

に割り当てられた。長谷川は、四期生に対しては系統的な学習と訓練を考えていたようである。敗戦後の混乱からの再建が進むのに合わせ、編集体制の長期的な組織化を目指していたと思われる。それは、夏休みに入り戸田で一週間の合宿が行われた時に判然とした。昨年の無統制なお祭り騒ぎに対し、午前中はびっしりと長谷川の組んだ学習が用意されていた。対象は新入生だよ、と照れ隠しを言っていたが、全員がこれに参加し、討論の中で得るところは大きかった。午後は自由時間となっていたが、夜もミーティングが用意されていた。それは、陣中見舞にきた加藤をして、去年とはすっかり違ってしまったな、と嘆かせたものであり、新人生にとっては得難い新聞学の演習であった。その成果は、九月から桜井以下二期生の殆どが新事態への対処に追われている間、木村、山本を中心にして編集部を守り切った事実、はつきり現れている。それでも合宿は、野球をしたり泳いだりの字義通りのリクリエーションであった。田辺と山本の乗ったボートが引き潮に流されて湾外に漂流しそうになり、岬の突端からロープを投げて漸く阻止したというハプニングもあったりした。

【季刊大学】 第6号は奥付に九月十日発行とあるが、10871088号の出版部の案内では、「お待たせしました、廿日発売」とある。B5判一〇〇頁、七〇円である。引き続き鈴木進の装釘で、表紙は、右縦三分の二の濃緑色の仏像の模様にスカーレットの題字である。カット陣は、猪熊弦一郎、高木一郎、須田剋太、三輪福松、長安周一で、扉のデッサ

ンは猪熊、目次の上、下のカットは高木である。

表紙裏、目次裏、続いて二頁の出版社の広告が入り、巻頭言その他は無く、そのまま本文になっている。全体に落ちついた印象で、漸く型にはまって来た感じがする。特集は「世界経済と日本経済」、「戦後世界学界の展望」、座談会は平野義太郎司会の「学界刷新の諸問題」、そして古島敏雄を中心にした法文農の若手研究者による「農村ルポルタージュ・割地慣行の共同調査」がある。裏表紙も表裏とも出版社の広告で、本文中にもあり、十月上旬発売と第七号の予告も載っている。

(Z) という署名の「編集後記」の結びの部分には

○……本号に引つづいて別冊季刊大学発行の予定である。哲学、文学、文化の本格的論文とともに、政治、経済、農村、文化、技術等の各分野におけるファシズムへの道の分析を特集する。なお第七号から、用紙印刷難を排して隔月刊にする方針でいる。

○……季刊大学をよりよい雑誌にするために、読者の声を大にききたい。今まで以上に御批判をお願いしたい。なお本号には読者調査カードを挿入した。はつきりと読者を想定して編集出来ることは強みである。出来るだけ多数の読者が御返送下さるようお願いする。

と書かれ、編集部の自信の程を示している。まだこれが書かれた時点では、事態ははつきりしていなかったのであるが、思いも寄らず、事態は急転し、別冊も第七号も刊行されることなく、この第6号を以て

終刊となったのである。

【発行日・頁数】 引き続き木曜日発行で、四月十五日の1068 1069号、六月二十四日の1079 1080号が四頁、七月八日の1082号の後、夏休み中は、七月二十九日、八月十九日、九月九日と三週置きに四頁号を発行し、九月十六日の1089号から二頁に戻る。そして、十一月四日の1096号の後、争議に突入し、編集部独自で十一月十七日にタブロイド型二頁の号外第一号を発行するが、交渉が妥結し、十二月二十七日付けの1097～1100号八頁を以て終刊となる。なお、発行兼印刷人は1093号までは桜井であるが、1094号からは事務長の明石功となっている。号外は仲尾である。

【購読料】 四月八日の1067号に②「社告」があり、一部二頁二円、四頁四円、一カ年（送料共）百円、半カ年五十円となる。更に三カ月後の七月八日の1082号にも「社告」があり、倍増の二頁四円、四頁八円、一年一八〇円、半年一〇九〇円と、インフレの物凄さを語っている。

【広告】 引き続き十七段制のうち、一面は下三段（二段十四割りの上に一段七割り）に二段の左右を突き出し、二面は下二段十四割りに二段の左右の突き出し、が定型であるが、合併号の三、四面、二頁号でも二面が下四段広告の号が幾つかある。号外には一、二面に二段の突き出しが一つずつ、終刊号は一面が下六段、三、五面が下五段、七、八面が下四段、二、六面が下三段、そしてそれぞれ突き出しが左右に二つ、二、三、四面に一段の記事中一つ、六、七面に二つある。

【本社関係】

1068 1069号、1070号に一段ボックスの①「編集員募集」があ

り、1075号に①「ジャーナリズム講座、廿一日から開講、本社ジャ連で共催」がある。

同号には①「美濃部達吉氏」の計報が顔写真入りで載せてある。本社元理事長の美濃部博士が五月二十三日に逝去されたのを報じたもので、経歴が四十行に亘って続いている。次の1076号には一段の写真を入れ、②「美濃部博士追悼会、慕い寄る門弟四〇〇余」と、国家学会と法学協会の共催で二十九日に、廿五番教室で行われた追悼会の模様が伝えられている。会は、我妻法学部長の開会の辞、南原総長、宮沢教授、大内教授の追憶談、長岡半太郎学士院長の追悼文朗読、山田三良博士の閉会の辞、の次第であった。同号の「主観客観」も、美濃部博士の志に従い、無宗教で行われた追悼会のことを取り上げている。それは長岡院長の弔辞の「保守性」を指摘し、「実証的、科学的な憲法学、行政法学を樹立し、勇敢に絶対主義の防壁に立ち、歴史はこれを認めた」博士像と対比させたものである。同号二面にも②「美濃部達吉博士を追悼す」と、山之内一郎と奥山信一の追悼文を載せている。

新入生の生活調査は、今年も入学式の日を実施され、二七〇〇名中二三九二枚を回収、その結果が1070号に②「本社新入生生活調査」として発表されている。②「学費は月平均2240円、自宅通学が半数以上」が総見出しで、一、家庭の職業、二、入学後の宿所関係、三、食糧の補給、四、学資関係、五、アルバイト関係、六、政党の支持、と分けられている。六では各学部別の一覧表が載っているが、それによると、総計では（一）

内は昨年)、なしⅡ四八・二%(三四%)、社会党Ⅱ三二・四%(四七%)、民自党Ⅱ八・二%(一〇%)、共産党Ⅱ七・七%(六・七%)、民主党Ⅱ二・七%(一・四%)、国協党Ⅱ〇・九%で、なしのアップと社会党的ダウンが目立ち、情勢の変化を的確に反映している。同号の「主観客観」もこれを取り上げ、比較的生活の安定している家庭の子弟が多いという結果について、分析を加えている。

【出版部】 1067号二面に二段ボックスで新刊案内があり、南原繁著「人間革命」目下発売中、「季刊大学」五号、漸く発売、とある。以下いずれも二段ボックスで、1072号に「日本農業問題の所在」(B6判三〇〇頁・一〇〇円・千一三円)五月中旬発売予定、1075号に「人間革命」三版発売中、重版「祖国を興すもの」六月初旬発売、1079 1080号に「日本農業問題の所在」(三二〇頁・二二〇円 千一五円)発売中、1087 1088号に「季刊大学」第六号廿日発売、近刊「近代経済学の課題」(B六一八〇頁・予価一〇〇円 千三〇円)九月下旬発売、1093号に「国立大学入試案内」(B6三八〇頁二百円 千廿円)十一月二十日発売、があり、号外の突き出しに「国立大学入試案内」いよいよ発売、とある。季刊大学第6号の「出版部だより」には、進行中のものに「マルクス経済学と近代経済学」(十月刊行予定)があり、企画中のものに「近代法学の課題」、「近代文学の課題」がある。と書かれているが、勿論これ等は刊行されていない。終刊号の二面に二段ボックスの通し組みで、総務部長明石功が発行人としての御託びの言葉を書いているが、その終わりにお預りの購読料と引き換

えできる書物が載せてある。人間革命、農業問題の所在、近代経済学の課題、季刊大学六号、二十四年標準^(マ)準^(マ)歴^(マ)(東大総合研究会編、B6版五十頁・価三五円)である。

【論説】 1067号は「学術新体制審議完了に際し」、1068 1069号は「新入生諸君を迎えて」である。先ず、大学の自治とは、学問の自由、世界観と思想の自由を闊い取ることであると説き、アルバイトしながら学問をしなければならぬ諸君に課された責務は、

学問の自由を擁護しつつ絶望的な現実を一步一步解決する実践の過程にあって歴史の進化を学びとることである。勇気と決断こそが諸君の信条でなければならぬ。

と、格調高く結論しているのであるが、無論これは、新年度を迎えての編集部の決意でもある。

以下、1070号・理事会案と商議会案、1071号・授業料問題、1072号・日本文化の問題、これは東宝問題である。1073号・新大学制審議と学内の世論、1074号・教育復興会議の発足、と、合点のゆかぬ事、これは経友会の在り方についてである。1075号・授業料運動の現段階、1076号・文部省に与う、1077号・学界の諸問題、1078号・東京農大の事、と、学校新聞の問題、1079 1080号・学生と社会、1081号・教育復興闘争と新聞論調、1082号・教育復興と教育二法案、1083 1084号・国学連の教育機構改革案、1085 1086号は休載で、1087 1088号は、現代の意識、卒業生諸君に、である。これは筆者が編集会議の激しい討論を浴びながら纏めたもので、当時の編集部の

活力に満ちた明るい雰囲気を与えるものと思う。要旨は、敗戦後三年経ち、この六月の教育復興闘争の中で、

学問の最低線を守る為には、遂に、学生自らが意識的に現実と対決し、最低の自由を犯そうとする政治権力に、結束して向わなければならない事が確認された。

とし、今社会に巣立つ諸君の大部分は、心ならずも組織に組み込まれて中間的立場を取り、この過渡期を更に過渡的に生きなければならぬだろうが、この現実に対する最低の意識だけは忘れないでほしい、と訴えたもので、季節は冬に向い北風の訪れに再び脅怖と屈従が語られ始め"などと文学調であった。当然、仲尾、田辺あたりから、大甘だ、総長級の観念論だ、と攻撃されたが、筆者は、前衛は後衛の役割も果たさなければならないのだと、意気軒昂であった。九月を迎え、編集部全体に、対決姿勢が漲っていたのである。

1089号・学生新聞の自主性、1090号・基本的権利の侵害、1091号・教育委員選挙に臨んで、1092号・新聞の自由、1093号・次官通牒について、1094号・新制大学審議を公開せよ、1095号・学生運動の不当な弾圧、1096号・大学教授に訴う、号外・大学法と学園民主化、である。

【主観客観】 仲尾の担当が続くが、1074号から縦書きに戻る。1067号は理事会案など、10681069号は新入生に望まれる歴史感覚、1070号は授業料等の値上げ反対運動の問題点、1071号は昭和四年の授業料値上げ反対運動、1072号は既出の本社の新入生調査、1073号は新制高校生が地方教育委員会

対決姿勢を強化(河内光治)

法案反対の街頭署名運動をしていること。1074号は縦書きに戻るの弁で、十七段制になり活字が更に扁平になるのが直接原因とされている。1075号は今年の五月祭の感想、1076号は既出の美濃部追悼会、1077号はまたつく文教政策について森戸文相への注文、1078号は天皇退位についての南原発言、10791080号は阿佐カ谷寮事件、1081号は大正十二年の軍教事件、1082号は夏休みを控えてアルバイトの問題、10831084号は井上博士の地震予知の問題点、10851086号は教職適格審査について、10871088号は用紙再配分に關連して学生新聞と大学当局との関係、1089号は東大の新制大学移行について教養学部"セクト的な人事が行われないようにという注文、1090号は学寮建設寄附金募集が三八〇万円で頭打ちになっている現状、1091号は結成された学生団体生活協議会のこと、1092号は用紙削減問題に対処するため編集部が行った読者調査の結果。これは記事として掲載できなかったための便法であった。二〇〇〇枚の調査カードを配布し八六〇枚の回答を得た時点での報告で、単なる学生新聞ではなく広い読者層に行きわたっている"と結論している。1093号は"早大生二千名が東大にデモに来て、大講堂前で官私合同学生けっ起大会を開いた"こと、1094号は戦後の次官通牒の移り変わり、1095号は東大の新大学制審議の現状で、教養学部の新設など内容を知らせてほしいということ、1096号は文部省が投げた次官通牒という一石のため長野師範、秋田師範等で起こっている弾圧の実状、号外のものこの続きで、戦前と異質な自主性のない"権力者の買弁性"を指摘している。

【おちば】

1067号は、満員のため大講堂に入れず守衛と言い争う学生の声を、厚生部長が総長演述への野次と勘違いしたという話、1068号は、授業料値上げ反対についての各政党、大蔵省、文部省の回答、1071号は神経大北野教授の提案した教授の能力査定案、1072号は入試の答案採点の手当のこと、1073号は、五月祭の時は学内の掲示板は殆どこれに当てると決まったこと、1074号は、南原総長の京都出張旅費の明細で、赤字は印税で埋めたという、1075号は、五月祭の法文経インターハイで都立高が優勝し千円の賞金を受け取ったが、さてその使い道は？、1076号は、大講堂や我妻研究室のカーテンその他、学内で盗難横行という話、1077号は、バッジ売り出しの前に贖物が出始めていると二つの写真を載せている。1078号は或る運送会社の夜警のアルバイト料、1079号は、経友会の盟休決定の貼り紙が小使いさんに二度まで剥がされたという話、1081号は贖物の本社編集部の名刺を持って来た母親のこと。

1082号は、戸田村役場から寮を撤収すると通告を受け厚生課が大慌て、1083号は、インターハイの野球の東高対成蹊戦で、外野のラインがはつきりせず判定不能のため中止再試合が行われたという珍談、1085号は東大で行われた高文試験の受験生の話、1087号は、給与ベース改訂で差額支給となったが、小使いさんあたりでは逆にマイナスになった人もいたという、1089号は、自治会が全学連結成の代表者会議のため廿八番教室の借用を申し入れたところ、舞出学部長が断り総長は学部長会議に諮るとのこと、1091号は、協組理事会で冷菓部の設備の冬期利用に

大内教授等から名案が出たが、結果はどうか、1092号は、この春映研が二つに割れたが今度は人形劇研が分裂、1093号は、一工二工の親睦会にダンスを入れるかどうかでもめているという、1094号は文化祭の予算配分の内幕、1095号は化学教室で塩素ガスが洩れた事件の顛末、1096号は、協組食堂の従業員大会のため学生委員が飯盛りからカウンターまでしたという話、である。

【木 柵】

文部省廻りを山本に譲り遊軍となった筆者が、学外文化情報欄として提案したもので、固い鉄の扉でなく、柔らかい木の柵にしたいと説明した。1072号が第一回で、東中野モナミで開かれた近代文学・綜合文化・夜の会・マチネーポエチークの合同会議を取り上げた。1073号は、東京都の新劇コンクールが従来の人気投票を止め審査委員会に移されたこと、ともに(G)。1074号は新聞出版用紙割当委員会の法制化の問題で、(Z)とあるが桜井であろう。1075号は東宝問題を契機にして日本文化を護る会が発足したこと、(S)とあるから桜井だろうが、二つともオクターブの高いアジ調である。1076号は、民芸「たくみと恋」について、川島、辻教授等学者グループと劇団側の懇談会が演劇評論家三氏を加えて開かれたというもの、1078号は、事業縮減が噂されながら組合も動きを見せない最近の気象台の表情で、ともに無署名である。1079号は1075号の「日本文化をまもるの会」の第一回大会の報告、1081号は、議会上に上程された放送事業法案の問題点とNHK労組の分裂で、「文化反動の攻勢」と表現している、ともに(G)。1082号は、このとこ

る目立つ文学者文化人の平和運動を取り上げ、その実践こそがわれわれの悔恨を社会的な実存にするのである」と結んでいる(B)。九月に入り、1087 1088号に昨年組織された全日本民主主義文化会議の第二回大会の日程(G)、1089号に民主主義擁護同盟準備会主催の「ポ政令に対する公聴会」の報告(G)があり、1091号に都下廿学生新聞代表とCIE学校青年係りタイパー氏との懇談会の内容が示唆に富むものと紹介され(無署名)、以後はない。

【音 叉】 1068 1069号に「特研究生を廃止せよ、理出・山本一郎」があるが、これは1064号の谷田沢道彦の「特研究生の立場から」を読んでの感想で、これに対し谷田沢は1071号に「特研究生廃止」に」を投稿して応えている。1070号に「入学試験について、一工教授・鳳誠三郎」があるが、これは最近新聞やラジオで報道される入試の「運動」や「寄附」について、東大にはそういう情実の入る余地は一切ないと説明したものであるが、皮肉にもこの秋、東大の文学部の事務員による答案の加点という不正入試事件が発覚した(終刊号)。

1072号の「授業料不払のこと、文・山本雄二」は、1071号の記事「不払運動の反響」に集められた各界の談話について学生の実状を知らなすぎるという感想であり、1073号の「言論思想の自由、文・武井昭夫」は、放送された座談会の内容について出席者として異議を唱えたものである。不払いに関連しては、1076号に「特権ということ、経・古川浩」、1077号に「世論の支持、全通小田原支部・白井浩吉」がある。この人の投

稿は1079 1080号にも「労働者から学生へ」が掲載されている。1072号にはもう一つ「神睦会^{つぐみ}のこと、文・湯本和夫」があるが、これは国文研究室の親睦会で軍歌が歌われたことへの批判であるが、1073号に国文・談話会学生委員の反論がある。1082号に「奨学資金係に望む、文・青山洋一」があり、1083 1084号に学生課育英会係りからの返事がある。

1070号にももう一つ「東宝問題に寄す、文・小町田寛」があり、読売新聞の報道への不愉快さから映研や文化会が真剣にアピールすべきだとしているが、これを含めて1081号に「文化会の立場、常任委員・佐々克明」の反論があり、文化会の「無思想性」を主張している。佐々は自治擁連の発起人の一人であった。1076号の「愚劣なる習慣、文・村山正雄」はその自治擁連結成を報じた毎日新聞の記事の、参議院議員令息等という書き方を問題にしたもので、1082号の「自治擁連の声明、法・森脇護司」、号外の「分裂主義者に、経・宇野正雄」は、ともにその反共の走狗性を非難したものである。

1093号に「東大バッジの問題、二工教授・星野昌一」があり、大量生産についての問題点を提起している。1096号の「驚くべき著作、工・岡嘉仁」は、工学部T教授の著「内燃機関の熱力学」を盗作として摘発したものである。

【講座・講演】 1070号に社会思想研究会の(1)「自由主義思想」講座、1071号に史料編纂所と歴史学研究会主催の(1)「歴史講座二つ」の日程、1072号に本社と時事通信社の共同主催(1)「ノーマン氏講演会」、これは1073号

に(1)「ノーマン氏講演会延期」と出て、1974号に(1)「批判精神を失うな」、ノーマン氏学生を激励」と一段の写真入りで報告される。更に1075号にも四段の囲みで、(2)「日本の学生諸君に、圧政の伝統を切捨よ、E・H・ノーマン」と、「安藤昌益とその封建社会の批判」と題した講演の結論を編集部で要約したものが載せてあり、全文は10791080号の二面に掲載されている。その他、1073号に、(1)「中研ゼミナール」、(1)「社研・ゼミと公開講座」、1074号に理工研の(1)「理工学公開講座」、1075号に(1)「法学部公開講座」、1076号に(1)「文・公開講座」、1077号に社会医学研究会主催の(1)「現代医学公開講座」、1078号に(1)「東洋文化講座、第四十九回」がある。

10791080号に東大社医研主催の(1)「石原博士記念講演会」、1081号に(1)「『學術復興』講演会、民科主催、三日東大で」、そして1082号に演壇の大山郁夫の写真を入れて(1)「民科学術復興講演会」とその報告がある。10851086号に大阪商大の(1)「名著解説講座」、(1)「電子顕微鏡講習会」、1090号に(1)「民科・歴史講座」、社会思想研の(1)「現代社会主義講座」、1091号に(1)「日本音響学会談話会」、1093号に(1)「日本物理学会分科会」、1096号に史料編纂所の(1)「日本史の公開講座」がある。

【その他】 研究所紹介は、1090号に西洋経済史研究会があるだけで、新たに二、三段ボックスの「学内文化団体紹介」が設けられ、1070号①東大英語会、東大英語研究会、1071号②唯物論研究会、1072号③東大歴史学研究会、1073号④東大演劇研究会、1074号からタイトルが「東大文化団体

紹介」となり、⑤社会科学研究会、1076号⑧ダンス研究会、映画文化研究会、1978号⑨現代文学研究会、19831984号⑨言葉、1989号⑩東大学生基督教青年会、1090号⑪東京学生考古学会東大支部、で終わっている。

研究助成金関係では、1070号に(1)「一億五千万円、文部省科学研究費決る」、1076号に(1)「科学研究奨励交付金」の応募要領があり、1090号に(1)「人文委、助成金交付きまる」と各部の第一次被交付者の氏名が載せてある。

前期からの「学寮建設寄附者名」は、1067号③から、1095号②まで、1071号、1075号、1078号、10831084号、1089号、1094号を除き、一月二十七日から八月二十八日までの分が順を追って、毎回、金額、氏名、卒業年次、小計、掲載日現在の合計金額、の内容で載せてある。途中、手違いのためと断って、⑩は⑪⑬の後になっている。なお、10831084号に(1)「学寮建設寄金募集、年末まで締切延期」と出ている。

戦歿学生の手記は、「はるかなる山河に」と題して協組出版部から一月に刊行されたが、1081号に(1)「日本戦歿学生の手記、編集委員会で計画」、1090号に(1)「戦歿学生手記募集、「はるかなる山河に」を全国版に」と載っている。

【企画もの】 学生論文 1082号10831084号に(1)「学生論文募集」がある。夏休み中の調査報告と研究論文で四〇〇字詰六枚前後である。そして10871088号の三面に、論文には該当するものがないと断って、「学生ルポルタージュ」として四編を特集している。「中小織布業の実態、有名無実

の労基法、粗悪な機械で労働力酷使、東大経・黒野良允」、「特異な産業疲労、逢坂山トンネル環境の調査、京大社会医学研究会・吉田克己」、「土壌分析と共同化、アンモニア水利用村を訪れて、東大農副手・高井康雄」、「労働を噛みしめよ、学生アルバイトを分析する、東大文・阿部好晴」、である。

記事

【学内】この期は内外ともに記事が輻輳しているため、一般的な学内記事は減っているが、一応、夏休みの前と後に分け整理する。先ず、全学的なもの。1067号に(1)「卒業と発表と」がある。三月三十一日に行われた第五十八回卒業式の模様を伝えたもので、卒業生二五七〇名と父兄で大講堂は満員、式はモツァルトの奏楽で始まり、卒業証書授与、総長の「職業の倫理」と題する演述、卒業生答辞、全員による学生歌「暁の野辺」の合唱、音楽部の「ほたるの光」の斉唱、で終了とある。続いて、(1)「哀歎の声満つ日」と入試の結果を報じ、横(2)「出身校別入学者数、本社調査」という学部別一覧表が添えてある。写真は、卒業祝賀会の総長と卒業生、発表揭示にむらがる受験生、の二枚の三段であるが、卒業生はいずれも角帽をかぶっている。

1068号に(1)「入学式」が三段の大講堂前の写真を入れてあり、(1)「総長演述の印象」という新入生の談話が集めてあるが、物々しいとかア

対決姿勢を強化(河内光治)

カデミズムの無力とか、批判的である。変わり種として、(1)「三高土井教授学生に、東大仏文大学院に入学」がある。そして(2)「新学期に当り」と、経・舞出、法・我妻、二工・瀬藤、理・岡田、各学部長の談話が載せてあり、1070号に(1)「新学期に当りて」と、文・高木、医・田宮、農・田中、一工・亀山、各学部長の談話が載せてある。

1070号に(1)「五月祭日程決る」、(1)「応援歌第一回銓衡」があり、1073号に(2)「五月祭、盛沢山に催しもの、プログラム五万枚も用意終る」とあり、運営主体、会計、日程、学内公開、に分けて纏めてある。初日の五月廿一日に開校記念祝典が行われるのが例年と違うところで、1074号に(1)「五月祭告示板」、初日に発表と表彰が行われる(1)「学生歌、パッシ^{パッシ}決る」があり、1075号に(2)「五月祭、銀杏も色冴えて」とその報告が載せてある。今年は大体整然と行われたと思います」という委員の談話があり、写真は、諏訪嬢演奏会の行列、頬はる総長、試運転のバスの三枚。トビックは、○：「お母さん方に」相談(ウッ発見器など)、○：「若年者は御遠慮下さい」(医学部の展示、中は女学生で一杯)、○：式典よりも人気(諏訪演奏会)、である。1081号に(1)「五月祭黒字二十二万」がある。1072号に(3)「東大に附属中学を設置、教育の実験研究に、東高尋常科を転用」、二段の発表文の写真を入れて(1)「受付は十日―十三日、附属中学募集要項」が出る。これに対し1073号ではトップに(3)「新大学制審議核心へ、各学部へ反響大、部長選挙法など議題に」を置いて、審議非公開の新大学制実施準備委員会の現状を報じ、駒場と千葉の教養学部、今

回の附属中学は、「いずれも突然の発表であり、殊に後者については、委員の中でもよくその趣旨を了解しないものもあるので、問題視している向もある」と結んでいる。続いて解説も付されているが、同号の論説は「新大学制審議と学内の世論」と題し、昨年六月の委員会発足に際し、

「大学は教授だけの、事務官僚だけの大学であってはならず、職員組合、学生の積極的な意見がどしどし採用されなければならぬ」とを主張したのであったが、議事は非公開で行われ、決定事項が不明朗に突如として発表される恒例となった。

と、激しく非難している。附属中学の結果は、1074号に②「双生児五組合格、“宝くじ式”入試終る」と、「ふたり仲よく”双生児試験場へ”という二段の写真を入れて報じられている。

次に、講義や人事など。1068 1069号に①「新学年講義」として法・文・経の紹介があり、農学部②「合・不合格制決定」がある。1073号に「計報」として①「坂井英太郎氏」(名誉教授)、1074号に①「二工新学部長に瀬藤氏」、これは井口学部長の任期満了の後四月一日付けで発令されたというもの。1077号に①「文・入試二外語必須」、①「教授と学生ビルマへ、I・S・Sから招待状」、1078号に①「図書館利用状況四月」もある。

1081号に①「夏期休暇きまる」と各学部の日程が載せてあり、1082号に②「震研福井地区へ」、①「夏期研究プラン」(八カ嶽で調査)法農共同、今年も登呂へ考古学、東大社研北海道へ、①「夏の講習・講座案内」

と続き、1083 1084号に①「経済学部長野へ行く」がある。

その他、1070号に①「新入寮者きまる」、1081号に①「稲毛に東大寮」、①「二工・新々寮獲得」、1087 1088号に①「追分に新学寮」、①「大学に防犯協会」がある。

スポーツ。1068 1069号に①「打撃に主力を、六大学野球迫る」と、一段の「練習中の東大チーム」の写真を入れ、井波主将談とメンバーが紹介されている。1070号に①「同伴者はダメ、野球リーグ入場の注意」があるが、学生券のことである。成績は最下位となり、1078号に監督の神田順治の「春のリーグ戦を見て」が一段の写真を入れている。神田はこのままだと「六大学リーグの Exhibition Game になってしまう」と嘆いている。同号の「音叉」に「野球連盟に望む、法・山田」があるが、これは球場を神宮球場に定めてほしいというものである。

ボックス記事。1074号に顔写真を入れ三段で①「アメリカ人入学」、1075号に三段で②「運動に反対ではない」、これは経済学部の教授学生懇談会での学生と大内教授の遣り取りである。1077号に三段の②「社会科学辞典を編纂」、これについては1087 1088号に杉本俊郎が書いている。1078号に顔写真を入れ四段で②「木原博士、ストックホルムへ、学術の国際交流始まる」、1082号に横二段で、送られてきた英語と日本語の手紙の写真を入れ、横②「英語の下手な学生へ、米国の学士が文通希望」とある。

写真入りの記事は関連項目で取り上げているが、1079 1080号に、谷川、山中、戸田の各学寮の写真を入れて三段で①「夏の寮ひらく」があり、1082

号に一段半の横の「ひらかれた東大ブルー」の写真の下に横「水の誘い」とコメントを付けたのがある。

横組みの「学内ニュース」は、1076号に「中央委員会欠席の罰金」「二工でヨット公開」「月四〇〇円の寮獲得へ」、1078号に「スト論議白熱」があるだけである。

調査報告。1077号に(2)「東大農で生活調査、月収四千円内外(家庭)」があり、一、家庭の月収、二、登校状況、三、授業料値上、四、住居、五、アルバイト(1)「内職者は四〇%」、に分けて纏めてあり、アルバイトの有無、アルバイトの必要程度、の二つの表が付されている。1089号に(2)「寮生生活調査・東大厚生部、増加したアルバイト、多い新制中学の先生」がある。これは二工を含め全学寮の学生四九一名について行われたもので、(1)「平均すれば黒字」(収入の総額、その内容、過去の調査との比較、の三つの表付き)、(1)「過半数がアルバイト」(アルバイトの内容、の表付き)となっている。

夏休み後。1089号に(1)「9月30日、淋しい卒業式」、正規の卒業生は医学部だけなので、他学部は卒業生は医学部の卒業式に参加することになる、とある。続けて、(2)「官庁志望増加す・東大、九月の就職殆ど文科系のみ」があり、(1)「法・依然として官庁圧迫的」、(1)「経・金融関係就職激戦」、(1)「卒業生の少ない農理学部」(農・理・医)に分けてある。1090号に(1)「医最終講義」があり、1091号に(2)「今日巣立つ六百余、今年限りの九月卒業式」がある。来年からは完全な平時態勢に戻るることにな

り、

戦時中に入学して出征戦じんを浴びて復員して来た学生がぐんぐん卒業してゆくことで、学園に世代の交替を感じさせていると、二期生の感慨も洩らされている。1092号に(1)「東大卒業式」と当日の様子が報ぜられているが、大講堂も二階ががら空きで、「どこことなくしめやかな祝典」と書かれている。

同号には、(4)「あなたは自由を守れ、新聞はあなたを守る」の標語を柱に入れ、学内の新聞研究機関紹介の五段の囲み記事がある。(2)「新聞研究所・設立法案提出か、予算は出ても難行づく」、(1)「文・新聞研究室・科学的研究を」、(2)「明治文庫・有数のコレクション」、宮武老「川柳の弟子がほしい」、と続き、新聞研究室小野秀雄講師、明治文庫主任宮武外骨老、の顔写真が入れている。

他に、(2)「史学界刷新に巨歩、史料編さん所に劃期的改革」、(1)「停年教授」(医・大槻菊男、高木憲次)、(1)「東大経済学部長更迭、後任に矢内原忠雄氏」、(顔写真)、(1)「学生対策委員会、経・教授会に設置」、がある。

1087号に(1)「教養学部を創設、東大の新制大学案きまる」があり、1095号の「主観客観」はこれを取り上げ、教養学部について「学生や教職員にも内容を知らせておかなければならない」と要望しているが、終刊号の二面に(2)「東大の新制大学」という大学当局の(1)「発表要旨」が載せてある。一、全般の組織について、二、教養学部について、三、

教育学部について、四、その他の学部について、五、医学部医学科について、(六、博士号略)、が内容であるが、教養学部は全学部共通のジュニア・コースと三、四年生のシニア・コースに分け、ジュニアは駒場と浦和に置くとし、教育学部は「明年度から発足する予定」で、「附属施設たる研究実験学校として小、中、高等学校を予定」と書かれている。なお、終刊号三面の「一九四八年・回顧と展望」の中に、(2)「解説・東大不正入試事件」(K)がある。

1093号に(2)「学生大会は真摯活潑だ」、矢内原新学部長就任の説示」があり、「学生に多大の感銘をあたえた」とある。続いて(2)「学寮総連合を結成、全学寮生の意見を推進」、(1)「一・二工親睦会」がある。1091号に(1)「秋の文化祭プラン・東大」、1094号に(2)「文化祭プラン決る」、1095号に(1)「文化祭プログラム」があり、1096号に三枚の写真を入れ(1)「文化祭終る」とあり、雨や寒さのため「期待されたほど人は集まらなかった」とある。写真は、二十五番教室の入口の長蛇の列と、説明はないが、演劇の舞台と、展示室の風景である。

スポーツ。1090号に(2)「秋のリーグ戦を前にして、神田順治」があり、1093号に(1)「リーグ戦、秋の野球戦績」がある。

ボックス記事。1089号に横二段で(2)「平和と自由の為に、中国学生同盟の訴え」、その機関紙の三・四号が自治連書記局に送られて来たので印刷して各校に配布すること。1093号に三段で写真入りの(2)「アメリカから最新医書」がある。

写真入り記事。10871088号に、二段の写真の下に一段の横(2)「浜尾総長と市川中尉」というコメントを付けたのがある。戦時中の供出をさばり図書館裏に置かれたままの二つの銅像の写真で、市川中尉とは東大卒最初の戦死者(日露戦役)とのこと。

この期間の学内記事で注目されるのは、「東大」という語が多用されていることである。これは、昨年末、大学新聞連盟を脱退した後、非日刊の第一新聞協会に加盟したので、「学内の学生新聞」という性格を脱し、「全国的な学術文化新聞」という実像に少しでも近づけようという意図からなのである。東大中心というのでなく、東大も取材の一部に過ぎないという姿勢を示そうとしている。

なお、「学内メモ」「人事」「学界」「学界」は引き続き省略する。

【学外】1066号の森戸文相の談話にあった文部省の改組は、1070号に(2)「五月中に決定」と出て、(1)「改組に二つの意義」という有光次官談が付けられているが、1076号に(2)「遅延する文教政策、その後の改組問題等」とあり、改組の原案の提出が遅れていると書かれ、その他、六・三制、教育委員会法、厚生委員会、についても、もたつきが指摘されている。1081号に(1)「文部省改組は延期」とあり、夏休み明けの1091号に(2)「一月から改組か、中央教育審議会を設置」とある。

1074号に(1)「科学教員委員会生る」、(1)「育英資金・新規採用二千名(大学)」、これと授業料についての(1)「文部省の声明要旨」があり、10791080号に「育英会・申込昨年の三倍」、1082号に(1)「天野氏育英会長に」、10871088号

に(1)「育英資金倍増か」がある。

1078号に(横)「21億円」(2)「文部予算国会で審議、国立総合大関係は十億」とあり、全体の内訳の表と、各大学の概況が出ている。同号には(1)「全国総合目録作成へ」もあるが、これは、大学図書館等の図書目録のことである。1081号に(1)「文部省・産業界代表と懇談、学生対策に協力要請」、1082号に(1)「文部省で内職打合せ」、1083号に(2)「職業安定出張所に、学生アルバイトあつ旋機関の行方」があるが、これは文部省と労働省の間で行われた交渉の一応の結論である。同号には又、(2)「厚生委・奨学制度も充実、学生厚生対策の答申案まとまる」もあり、1087 1088号に(1)「機能を広範に、厚生委案練り直し」がある。

1067号に(1)「阪大名大新学部」、(1)「五新設医大学生募集」、1083 1084号に(1)「明春インターン生試験は一月」、(1)「引揚学徒の転校、銓衡は八、九月中」、1095号に三段ボックスで横(2)「大学入試方法内定、公表しないのは予算関係から」というのがあり、進学適正検査、学力検査、の内容が明らかにされている。

1089号に(2)「文部省で盟休調査、「学生と政治運動」根本対策を研究中」、1094号に(1)「総長会議、学生と政治運動、大学法案を審議」がある。十月十九日に第二次吉田内閣が成立し、文相に下条康麿が就任する。号外に(1)「下条文相に聞く」という簡単な一問一答が載っている。

学界。1068 1069号のトップに(3)「理系学会の戦線統一へ、先ず資金難を、学会懇談会で組織化提案」があるが、これは第四回の学会懇談会で申

し合わされたというものである。そして、昨年十月、文部省の肝入りで東京に本部を持つ75の学会代表で構成されたこの懇談会についても、種々の問題のあることが指摘されている。1075号に(1)「経済学研究会発足」、1090号に横(2)「国際会議へリポート提出」がある。これは、英国で開かれた太平洋問題調査会会議に提出された大内兵衛等六篇の論文名を載せたものである。1095号に「学会」とタイトルし、六段ボックスで(3)「北陸震害の調査に拾う」(丁)がある。これは学術研究会に設置された特別委員会の公式発表会の模様を報じたもので、地震の性格、災害の規模、大建築の被害、耐震工学の要請、地震と農学、防災対策、に分けて纏めてある。

その他、1072号に(1)「恩賜賞学士院賞決る」、1078号に一段の写真を入れて(1)「学士院賞授賞式」、(1)「学士院長に山田三良博士」、1087 1088号に(1)「芸術院長に高橋前文相」、文部省(1)「科学局長に茅教授」もある。1079 1080号に(1)「全国図書館員大会」、1084 1084号に(1)「国際学生懇談会」、1085 1086号に(1)「高文・試験始まる」、1092号に(2)「米国人文科学顧問団来訪、三カ月に亘って研究機関視察」がある。

1072号に(1)「大学教授連合総会」という予告があり、1074号のトップに五段ボックスで(横)「全国大学教授連合総会」がある。記事は、京大で開かれた総会の内容を(2)「教授の身分保障を、ユネスコ協力も決議」と報じ、(2)「総長財界人と懇談、京阪神に学寮建設委生る」、(2)「挨拶要旨」と南原総長の動きを伝えている。そしてその下に七段の囲み記事で(2)

「いかに大学教授は生きるか」というのがある。(2)「教授(52歳四人家族)で三千七百元」が見出しで、学生の生活費が月二千五百円というのが常識の今、どうやって生きているのかと、苦しい実状をレポートしたもので、1081号には三段ボックスで(2)「教授連合で、俸給値上の陳情」がある。

新学制。1067号に(2)「白線浪人も大丈夫、新学制で学生はどうなるか?」(K)があり、来年度からの新制大学移行について、白線浪人等の立場を種々に想定しているが、「いずれの場合にしても」年度末近くにならなければ駄目であろうとの見通しが強い」と結んでいる。然し内容が誤解を招いたようで、1068号に「補正」を出している。Kは筆者である。更に1082号に(1)「白線浪人の行方」があり、1087・1088号に(1)「新制も受けられる」と文部省の方針が伝えられている。

1072号に(1)「大学設置委員会・解説」があり、1083・1084号・1085・1086号の二回に分けて(横)「高校はどうなる」と新制大学移行についての旧制高校側の案が紹介され、終わりに(1)「新制大学への声」という共通した批判と希望が添えられている。1083・1084号には(1)「各大学には教育学部を」という文部省の方針も明らかにされている。

1087・1088号に(3)「来月半ば頃までに完了、新制大学219校審査始まる」、(1)「都市集中を警戒」、1091号に五段の囲みで(2)「解説・新制大学「教授」の資格基準」(Y)、1093号に(2)「新制大学一次審査・目立つ設備の貧弱、同志社大など不適格」、(1)「東京女専の場合、私有図書でごまかす」、1094号

に(2)「予算と人員が問題、都立大学発足は来春に」と記事が続く、同号の論説も「新制大学審議を公開せよ」である。そして終刊号の「回顧と展望」の「新制大学」の項に(2)「適格170校にとどまる、文部省で二年制大学も考慮中」の見出しで、大学審査状況、新制大学の内容、廿四年度入試要項、が載せてある。

理事会案、大学法。1067号のトップに(3)「理事会案問題化せん、日教組等で基準協会案検討」、(2)「全国教授連合、理事会案に反対、大学教授身分法にも意見書」とあり、1070号のトップに(3)「商議会案を答申、教刷委・理事会案に結論」と出る。記事は、(2)「教刷委・教授会の自治を確保」、(1)「国立大学自治連・理事会案に反対」と続き、(2)「アメリカの理事会」(一、機能、二、選出法、三、任期、四、定員、五、報酬、六、理事の性格)、(1)「理事会案との相違」、理事会案を発表した(1)「大学基準協会」の「解説」(B)も載せて、理事会案(ボード・オブ・トラステーズ)と商議會(カウンシル)案の内容を手際よく纏め、論説でも「理事会案と商議會案」と題して問題を整理している。更に1081号には(1)「解説・問題の理事会案」(Z)を載せ、これまでの経過と問題点を洗い出している。

そして、1071号の(2)「日教組・商議會案を支持」、1078号の全国大学高専代表者会議の(2)「理事会案・地方移譲に反対」、1082号の(3)「教育復興闘争、焦点は理事会問題」、(2)「理事会案一部修正、学生代表イールズ氏に聞く」、夏休み後は1090号の(3)「全国学生自治会連合生る、理事会案・

私学法案には無期限スト」と、学生運動の中心問題になって行くのである。

1093号に二段通し組みで(2)「理事会法原案決定か、南原総長談」というスクープが載る。文部次官は未だ研究中と言っているが、原案は多分今週中に教育刷新委員会に内示されるだろう」と自治会中央委員との会見において語ったというものである。そして次の1094号のトップに(3)「国立大学法原案きまる、大学に管理委13名、通常国会までに各大学、刷新委で検討」と出る。これは既出の(1)「総長会議」に「University Law」として提示されたもので、(2)「広い行政権を握る」と、中央教育審議会と、各大学教育管理委員会の設置を骨子とした内容が説明され、1082号の「C・I・Eのイールズ氏が官公立学生自治連代表に対し理事会法一部修正案として示したものと同じである」と結ばれている。そして別項に「解説・『理事会法』から『大学法』まで」、横(1)「刷新委」があり、理事会案から商議案案として大学法への動きを追う編集は、きめも細かく行き届いている。この時期、二期生全員が本社の存続問題についてかかり切っていただけに、木村・山本の指導下に、問題意識を的確に見据えて編集実務を守り抜いた四期生の努力は、賞讃に値しよう。

1095号もトップに(3)「大学法への動き、買弁勢力を排撃、教刷委・結論は二週間後か」を置き、関連記事として、(2)「東大職組で声明」と「声明」全文を載せ、(2)「京都で反ファッショ戦線」、(1)「対策委で検討中」

対決姿勢を強化(河内光治)

(東京都大学高専教職員組合)、(1)「ダイガクハウゼッタイハンタイ」(九大)、(1)「民科で懇談会」、(1)「全学連は絶対反対」、(1)「教刷委で審議急ぐ」、(1)「東大に特別委」、と続いている。1096号もトップに横(3)「文部試案にまき起る反対」を置き、(3)「東大で代案研究中、教刷委今週中に結論か」と「東大案」を載せ、(2)「四日に修正意見決定か、総長会議・『東大試案』に大体一致」、(1)「教刷委・中央の権限に疑点」、(2)「全学協議会結成か、大学法案反対に東大職組起つ」、そして(2)「『大学法』試案要綱(抄)」を載せ、横(3)「大学法への見解を聞く」と学内の談話を集めて、一面の右約半分を埋めている。談話は(2)「管理委の権限に強い反対」という見出しで、我妻法学部長、高木文学部長、経・大内教授、亀山一工学部長、農・住木教授、経・氏原助手、文・中野教授、である。号外もトップに(3)「大学法・学内民主化を促進しつつ、学園をあげて闘う、全学連中央委(京都)で決定」を置き、(2)「九大・大学法を機に三者協議会」、(1)「東大にも可能性」、(2)「教刷委いよいよ答申」と続け、論説も「大学法と学園民主化」である。そして終刊号の二面でも、「大学法に反対する」と平野義太郎と我妻栄の論文を特集している。

その他の教育刷新委員会関係。1068号に(1)「刷新委・文化交流を要望」、1071号に(1)「教刷委・新に『宗教教育』があり、(1)「解説・教育刷新委員会」(B)も載せて、成立からの経過、構成、66回総会までの建議事項を列記している。帝大新聞らしい記録性である。1073号に(2)「教刷委・新に『国家計画委員会』生る」、(1)「文化財保存の建議」、1083号に

(1)「教刷委・特研究生制度も更新、新大学院は研究者養成」、(1)「一般学校は宗教教育不可」がある。

教育関係法案。1071号に(2)「教育委員会法」審議進む」とあり、1072号に(1)「教刷委・選挙方法を建議、「教育委員会」の実施について」、1079 1080号に(2)「教育委員会法・教育の地方分権、法案国会へ、実施は七月から」、1082号に(2)「現職教員も成れる、「教育委員会法」一部修正で通過」、1083 1083号に(1)「教委法十五日から施行」と出る。そして1087 1088号に(2)「教育委員・選挙告示される」、1089号に(2)「教育委員・十月五日に一斉選挙」(K)、1090号に(2)「商業が一番多い、教育委員適格審査切る」とあり、同号二面に「教育委員の資格」と題して、参議院議員岩間政男と、日教組中央執行委員産田治衛の意見を「文責編集部」として載せている。1091号に(2)「教育関係は三六%、教育委員立候補届出終る」、論説に「教育委員選挙に臨んで」がある。

1082号のトップに(3)「教育任免法案閉会後も審議、人事は大学行政機関で、官公立校教員は公務員」があり、身分、人事、大学以外の人事、教育長の選挙、研修、に分けて説明があり、論説も「教育復興と教育二法案」と題し、教育委員会法と教員任免法を中心に、大学法、文部省の改組、中央教育委員会設置を絡め、教育復興の方向を論じている。1092号に(1)「教育免許法案提出延期」がある。

1085 1086号に(1)「私立学校法を作製」、1089号に(1)「私学法行き悩み」、1092号に(2)「私立学校法案決る」、1096号に(2)「私学法案修正か、私学教委の自

主性を拘束」とある。

又、直接教育関係ではないが、1089号の二面に(2)「ポ政令に基く「政令二〇一号」意見書、民主主義科学者協会法律部会特別委員会」というのが、特別委員の氏名、(1)「政令二〇一号」?」という宮沢東大教授、杉村東大教授、金森徳次郎氏、田上慶大教授、辻東大助教授の談話を特集したのを付けて、十段の囲みで載っている。

学術体制。1067号に(3)「学術体制刷新案きまる」と、三月末の第八回総会で刷新案の最終案が決定され首相に答申されることになったと、刷新案の任務が事実上終了したことを報じ、(2)「日本学術会議設立、科学行政に建議勧告」と、◇科学審議機構、◇科学行政機構、選挙方式一部修正さる、既存学術三団体の行方、に分けて説明してある。そして(2)「教育も管轄せよ、米学術顧問団・勧告案を発表」があり、刷新案の学術会議案との相違点二つが指摘されている。1072号に題字脇五段の囲みで(横)「学術新体制」(2)「学術会議所管で行悩む」、1076号も題字脇に二段の通し組みで(横)「学術会議」と法案提出の動きを伝え、続けて(2)「学士院「独立したい」と法案から脱出したいという学士院の覚書等一連の動きを報じている。これは次の1077号に(3)「学術会議法国会を通過、学士院の異議は国会で解決」と出る。続いて学術研究会議の(1)「外国文献が読める」があるが、論説は「学界の諸問題」と題して学士院の横槍を咎め、科学の優位を守るため一日も早く学術会議が発足するよう要望している。この後、1081号に(1)「学術会議・運営委で選挙準備」、

1082号に(1)「学術会議法通る」、1085号に(1)「学術会議・有権者登録始まる」、そして1089号のトップに(2)「学術会議・積極的に登録を」(T)を載せ、1094号には(2)「立候補まだ三百、有権登録も僅か四万五千」と焦りを見せ、1095号に(1)「候補四・五倍」、号外に(1)「候補八六七」と出ている。

人文科学委員会。1073号に(1)「第五回総会開催」と予告があり、1075号に(2)「十月に総合学術大会、委員長に山田(盛)氏再選」とその結果が報告されている。1076号にも(1)「十月に総合学術大会」と殆ど同じ記事がある。1090号に既出の「助成金交附きまる」があり、1092号に(1)「秋の総合学術大会」(共通テーマは「封建社会」)の日程、1094号に四段ボックスで会場の写真を入れ二段の通し組みで、(2)「学問を民衆に」人文委総合学術大会終る」とその報告が載せてある。同号には(1)「仙台で哲学部会」もある。

終刊号の「回顧と展望」のトップに「学界」があり、(2)「荒廃する科学技術、相つぐ不正事件は何を意味する」(T)と、十二月二十日に投票が完了した日本学術会議の問題点と、インフレの進行に伴い、研究所、大学等の研究機関がその機能を停止するような動向があらわれたこと、及び研究の危機に際して大学教授を含む一部研究者の間に研究費詐取等の腐敗現象が出たこと「を掘り下げている。

他大学高専関係。1067号の「学園短信」は(2)「新制大学の胎動・関西」と、同志社大、関学大、関大、神戸女学院大、立命館大、神戸商科大学の動きを伝え、その他の短信が続いている。1068号以降も「学園短信」

は殆ど毎号ベタのゴチックの見出しで何項目か載せてあるが、残念ながらこれは割愛する。然し、この時期、学園紛争が頻発したので、短信の前に二段見出しの記事を載せていることが多い。

先ず、1068号に(2)「立教大学・人事権を行使(教授会)、宮川教授解職問題拡大か」(D)とあるが、次の1070号に(2)「宮川問題解決す、教授会の自治を再確認」と出る。これに関連して次の1071号に横(2)「大学自治の受難史、絶対主義と大学」という七段囲みの解説記事がある。これは、宮川事件は解決したが、大学の自治について、森戸事件、滝川事件、河合事件とそれに対処した学生運動を、現在検討する必要があるとして、「終戦後の「学生運動」が、それらとどう違うかを見究めておかねば現在の学生運動の本質と方向を見究めることは出来ないのである。(Q・Z)」と横組み一段のイントロを結び、(2)「河合事件で総崩れ」と、三・一五事件と新人会解散、滝川事件と河合事件、の小見出しを付けて、歴史を振り返っている。そして、

外界に弾圧の嵐が吹きすさぶときは、大学は静かに殻にとじこめることが一つの存在意義であったかもしれない。それが現在では静かであることは一つの退歩を意味する。自由は闘いとられなければならぬからである。

と結論して、当時の編集部の闘う姿勢を明確にしている。同号には(2)「十六名を誠首退学、日赤女専事件拡大せん」もある。

1072号に(2)「教授会案認めらる、法政大学経済学部問題一応解決」

(A・K)、1075号に(2)「学生新聞を没収、日本女子大・自治への抑圧表面化する」(M)、これに対して大学新聞連盟は「断固闘う旨の声明書を発表した」とあり、次の1076号に(2)「新聞発売を認む、日本女子大事件一応落着す」とある。1077号に(2)「全教授総辞職す、大阪専門で学生が議義管理」、(2)「予科長不信任か、専修大学教授学生動く」、(1)「委員二名を退学、岐阜薬専」、1078号に(2)「外資導入か東京農大、学長は慎重、学生は概ね賛成」があり、同号の論説も「東京農大の事」と「学校新聞の問題」である。1079号も(2)「経営者の独善(外資導入授業料値上等)、女専諸校で自治会が抗議」と、(1)「外資導入でもめる★東邦女子理専」、(1)「寮生の立退を要求★日本女子経専」、(1)「授業料値上に新戦術★東京女子専門」、を載せ、1083号にも(1)「一千万円の援助、金城女専の拡張に」がある。

1087号に(1)「根拠なき教員誹首」、京北問題に自治連が抗議、1091号に(1)「団体協約締結か、京北高校のかく首問題」、1092号に(1)「内職の欠席許さず、新学期以来退学四名」(上智大)、そして(2)「暗い学校と闘う」、女生徒四百、スト通告、信証学苑の封建性」という百行以上の詳しい記事があり、(1)「全学連から抗議」も付されているが、次の1093号に(2)「信証学苑・要求すべて通る、理事長、校長も引責退陣」と出る。このあたり、東大新聞の威力を示しているようである。

1093号に(3)「早大生大挙街頭へ、国庫から私学へ百億出せ」、(1)「早大生、東大にデモ」があり、1094号にも(3)「次官通牒に反撥、学校当局通告

に学生強硬」と、(2)「早大・学長訓示に反対」、(1)「長野師範・全学連脱退を強要」があり、「十三日東大にのりこんだ早大生」という二段の写真が添えてある。同号には(2)「秋田師範で学生七名処分、校長言明」政令二〇一号は学生にも適用」、(1)「青共学生を処分、野辺地新制高校」もある。1095号にも(2)「学生に謝罪要求、早稲田両学院に紛糾つく」、(2)「各地で弾圧しきり、法大、文理大、第二師範等で」、(1)「百四名退学か、長野師範その後」、(1)「茨城・学生連盟脱退を促す」、(1)「また暴行事件・日大」(R・K)とあり、論説も「学生運動の不当弾圧」である。1096号にも(2)「生徒六名に逮捕状、長師当局、生徒の書籍を調査」、(1)「東大生も捕まる・秋田師範」、(2)「早大・自治会中央委総辞職」、号外にも(1)「秋田師・校長ひ免要求に発展」があり、終刊号の「回顧と展望」にも(1)「三島予科事件」という日大予科の共産党員十名の退学処分事件が報告されている。

その他、1074号に(2)「年額六千円へ(成城)、私学でも授業料引上げ続出」と成城、早稲田、日大、中央大、法政大の実状を報じているが、1087号に(2)「私大授業料値上げ、文科六〇〇〇円理科七二〇〇円」と、私学団体総連合の決定した二倍強の値上げ案が伝えられている。1081号に(1)「一高で寮生残留制限、食糧事情で緊急措置」、1082号に(1)「同学会改組か、京大・自治会で不信任」、号外に(1)「北大・新聞部に教授」がある。「学園短信」の中で、1070号の「クラーク先生胸像再建資金募集」北大に一段のクラーク博士の肖像の写真、1085号の「一高・三高定期野球

戦終幕」にも一段の応援風景の写真がある。

【自治運動】

1068 1069号に(2)「学生運動クロニクル、自治運動」(P・P)がある。これは(2)「共同戦線の実現へ」とタイトルして、戦後の学生運動を、二・一・一ストを境に第一期と第二期に分けて展望したものであるが、この四月からは第三期ということになる。そしてこの第三期は、授業料問題から教育復興闘争へとという一続きの大きな流れがあるので、自治連を中心に、学内も含めてその動きを追うことにする。

まず、1067号に(2)「窮乏に加わる拍車、授業料定期値上げは確定的、(1)「授業料・最低三倍は必至」、(1)「国鉄運賃・値上げは五六月頃か」と出、1070号に(2)「授業料値上げに反対、不払同盟に発展の気運」、一段の写真を入れて(1)「東大・署名一日二千名」、と運動に火がつく。今回の不払運動は「払わない」というより「払えない」のが実状であるが、(1)「払わねばどうなる?」という解説記事もあり、「主観客観」も今回の不払運動は「天下分け目である」とその意義を強調している。

1071号のトップに(3)「授業料値上げ反対の波、払えない」で押す、減免・育英制拡充を要求」を置き、(2)「教授も協力(東高)、全国で続々不払決議」、(1)「日教組・学生を擁護」、(1)「声明書を発表・東大」と続き、(2)「不払運動の反響」という各界の談話特集、(2)「全学世論調査」を入れて、(2)「授業料値上げ・理事会案、反対を決議、文学部学生大会」と続いている。談話は、我妻法学部長、舞出経済学部長、農・田中(マツ)部長、理・岡田(マツ)部長、社研・宇野教授、朝日新聞論説委員(マツ)田中慎次

対決姿勢を強化(河内光治)

郎氏、私学総連合・本庄氏・大蔵省主計局文部掛・吉岡事務官で、既出の1072号の「音叉」はこの談話に関してである。「全学世論調査」は、東大自治会中央委員会が実施したもので、配布数は二千枚、回収率七二%で(2)「八割が納入不能、ほど同数が不払態勢を支持」となっている。論説も「授業料問題」であり、「主観客観」も昭和四年の不払同盟の学生大会事件を取り上げている。

1072号も(3)「高専六十校も不払に合流、文部当局運動の趣旨を了解、学生側と適正額検討」、(1)「学生代表・大臣と会見」、(1)「学生もメーデーに」と続く。1073号は、(2)「授業料値上・政府との会談議事録」(2)「腰の弱い文部省、倍率引下に努力はしてみたが」という自治連代表と文部省・育英会・大蔵省代表との会見の模様を「文責編集部」で八段の囲み記事として纏め、(3)「不払運動・交渉妥結に至らず、続々学生大会で不払決議」、(2)「不払態勢強化を決議、経・学生大会」、(1)「緑会も反対決議」と学内の動きを伝えている。1074号には、(2)「授業料値上・議会以主力を注ぐ、文部省は値上額決定に無力」、(1)「東大・20日に文部省と討論会」、(2)「経・教室大会もだめ、学部長回答に再度学生大会か」がある。

1071号に(2)「教育復興会議結成へ、自治連、日教組等七十五団体」、1074号に(3)「教育復興会議発足、六・三制の完全実施を推進」、(1)「5月26日・教育復興学生青年けつき大会」があり、1075号のトップに(3)「授業料運動に一転機、教育復興宣言を決議(東大自治会)、文部省育英資金増

額を確約」と出る。記事は(1)「6月1日・教育復興けつき大会」、(1)「浦高・教授も支援」、(2)「私学も支援約す」、(1)「教育復興宣言要旨」と続き、論説も「授業料運動の現段階」である。1076号は二段の写真を入れて(3)「文部省三倍値上げを通牒、教育復興宣言を採択、日比谷小音楽堂前・学生けつき起大会開く」、(2)「不払闘争絶対支持、日教組全国大会で決議」、(1)「たかまる地方」と山形高等の情勢を伝え、論説は「文部省に与う」である。なお、当日の大会に贈られた出陣の激励の辞は文責編集部として1077号に二段の会場の写真を入れて「学生諸君に訴う」と題して載せてある。

運動の進展に伴い、組織作りも急ピッチで進められて行く。1077号のトップに(3)「学生運動の統一へ、自治運動厚生運動の提携なる、自治連協組連協議会を結成」、(2)「自治連・全国的組織に拡大」、(1)「機関紙も発刊」とあり、(1)「全国代表者会議、十四・十五両日東京で開く」、学内の(1)「各学部で学生大会」、(1)「医専・スト決行も辞せず」もある。1078号はトップに、その全国大学高専自治会代表者会議の模様を(3)「育英資金15億要求、文教復興運動大詰へ」、(2)「理事会案地方移譲に反対」と詳細に伝え、(2)「大学高専の連合成る」、(1)「絶対反対を表明、衆院・値上げ公聴会で」、(2)「同盟休校を決議、白線浪人で沸く全高校協議会」、(1)「四校でスト決議」、(1)「無期限休校辞せず」と学内の文・経・医・一工の動きを伝え、(1)「不払い堅持、国学連代表者会議」と続いている。

1079号はトップに(4)「教育復興闘争の貫徹へ」の柱を立て、上二段は自治連代表と有光文部次官との会見の模様を伝えている。横(2)「文部省非力を認む、次官「ストは学生の本分に悖る」が見出しで、(1)「同盟休校を通告」があつて、次官の説明要旨が、一、文教予算の増額、二、学問の自由、学生の自治、三、外資導入、四、理事会案、五、同盟休校の是非、六、文部省の態度、に分けて纏められ、(1)「本分に悖らぬ」という直井君談が付けられている。その下に(2)「同盟休校遂に決行、議会の予算審議が山」とあり、(1)「廿六日全国スト」、(1)「八二校ストへ」とある。予定通り、二十三日・関東、二十四日・関西、東海、北陸、二十五日・中国、四国、九州、二十六日・全国、の日程である。続いて(1)「議会に部屋獲得」、(1)「学生ストと同調、教育復興会議で決議」、(1)「日教組も全面支持」、(1)「関東自治連も協調」、(1)「闘いとつた自治、山口高校ストにも参加」、があり、学内の動きを、(2)「文経農医専は断行(東大)、法ほか五学部は好意的中立」と(1)「声明」を載せ、(1)「総長委員と会見」、(1)「総長告示」、(1)「盟休の責任をとれ、舞出学部長、委員に要求」、(1)「法・復興闘争は推進、盟休決行は否決さる」と伝え、(1)「東大のスト風景」という、二十三日の「当日の東大正門、淋しい経三十八番教室」の写真を入れた記事を添えている。(1)「運動スローガン」(一、文教予算の飛躍的増額、二、学生生活の破壊反対、三、教育制度の改悪反対、四、学問の自由と学生自治活動に対する干渉弾圧反対)もあり、七段の囲みで民科幹事会の(2)「学問の自由擁護のため

の声明」を載せ、論説も「学生と社会」と題して同盟休校の意義を強調している。

1081号もトップに五段の囲みで横「重ねて文相と交渉」(2)「親切でない文相答弁、学生委員との会見物別れ」と、(1)「文部省に責任なし」と学生と文相の会談要旨を載せ、その横に、(3)「休暇中も闘争態勢維持、議会に陳情続く、論議を呼んだ同盟休校」と、(1)「地方毎に委員会」、(1)「議会に総出動」、(1)「政治活動に制限あり、文相・参院文教委で答弁」、(1)「産別メッセージ」、(1)「学校の干渉でスト中止★東京第二師範女子部、★職員組合も同調」東商大、★自由講義と講演会「六高」と記事が続け、右八段の囲みで(3)「同盟休校に意見を訊く」と、経・有沢教授、理・宮村助教授、文・中野教授、二工・原田教授、二工・瀬藤学部長、二工・平田教授、上原商大学長、理・弥永教授、経・隅谷助教授、工・丹下助教授、の談話を集めている。学内では、(2)「総長説示・反省と責任を、教授学生の連絡を密に」、(1)「我妻学部長が代講、川島民法講義を無断で」、それに続いてストのこぼれ話として、
 「▼……此処は盟休に非ず(廿五番教室の映画会)、▼……盟休是非論戦(文学部)、▼……悪法には従わぬ(ストは悪法という学生)」がある。論説は「教育復興闘争と新聞論調」で、各紙の「時代」ばなれした学生観を取り上げている。そして二面に「教育復興闘争への立場」と総題して「南原総長説示(要旨)」と、「学生の同盟休校と教職員組合の立場、種村孝」、「民主社会の常識、真下信一・飯塚浩二・南博」を載せ、1082号の二面に

対決姿勢を強化(河内光治)

も「南原総長「説示」に寄せて、石母田正・倉橋文雄」を載せている(「署名論文」の項参照)。

又、1081号に(2)「私学学生連合結成へ、早大が主唱・三日大隈講堂で」がある。1082号に官公立自治連第一回総会の報告が、(3)「教育復興闘争・焦点は理事会問題、民主団体との共同闘争」とあり、(2)「私学総連合結成近し」、(2)「官私学の統一成る」、(1)「全官公労とも提携」、(1)「闘争組織も確立」と続いている。学内では(1)「教育復興運動を再確認、規約改正でもめた文学士大会」がある。10831084号のトップに(3)「夏休みない復興闘争、教育機構改革学生案成る、次第に高まる労組の関心」があり、中央機構と学校機構(一、全学評議会、二、総長、三、学部会議、四、教室会議)の内容を紹介し、一段の「休暇中も働く中闘本部」の写真を入れている。論説も「国学連の教育機構改革案」で、三面に横(2)「教育復興運動年表」、横(2)「教育復興闘争の経過」が横組みで八段に纏めてある。10851086号に(2)「教復地域闘争の強化へ、労農下部組織と提携」、(1)「青年婦人会議に参加」とあり、(1)「委員は民主陣から、教復会議に選挙対策委」(教育委員)もある。

10871088号に(2)「教復闘争・新制大学問題を重視」、(1)「授業料暫く待て「自治会」があり、1089号に(3)「授業料問題再燃か、関東自治連すでに不払決定」、(1)「閣僚告発に参加」とある。学内では(1)「自治会新学制審議」、(1)「総長と会見、中央委員が授業料問題で」、(1)「大学当局告示」がある。

そして1090号はトップに(3)「全国学生自治会連合生る、理事会案私学法案には無期限スト、授業料不払に官私合流」と、九月十八日から三日間、東京で開かれた全学連結成大会の模様を報じている。(横)「第一日」(2)「官私戦線統一成る」、(横)「第二日」、(横)「第三日」(2)「民主陣営候補を応援、地方教委の選挙対策」と続き、二段の東京第二師範講堂の大会会場の写真を入れている。尤も、見出しの名称は次の1091号で「全日本学生自治会総連合」と訂正されている。

一方学内では、(3)「教室使用を制限、東大当局・政治運動に抑圧方針」、(1)「"掲示を撤回せよ"」と出る。これは、自治会が全学連大会のための教室借用を申し入れたところ、経済学部長が教授会の決定として断ったこと、自治会の授業料暫く待ての掲示に対し「告示」を発し撤回を求めた当局の措置について、学部長会議が支持を決定したというもので、自治会側の出方如何では重大な事態に発展するかも知れぬ形勢となった」と観測している。論説も「基本的権利の侵害」と題して、大学当局の認識の遅れを攻撃している。1091号は(3)「東大中央委態度を決定、学生運動弾圧に抗議、当局学生との話合に乗り出す」、(2)「10月1日・全学生大会開催か」、と報じている。続いて(2)「当局"教育上で制限"、総長・学部長と自治委員会談」とあり、一、授業料問題、二、集会問題、について一問一答が載せられ、(1)「スト論議不可、我妻法学部長・委員に言明」、(1)「舞出学部長回答、全学連抗議に対し」とある。

そして、題字横の三段に囲み記事で、(横)「授業料は納められるか」(Y)と、学内の意見と状況を紹介している、(2)「大勢は"払わない"」、"掲示の撤回命令は不愉快"、法学部三宅君、法学部関君、経済学部村田君、文学部小町田君、工学部広島君、(1)「"納入止むを得ぬ"」経・柳川教授、(1)「"双方もつと懇談せよ"」経・横山助教授、(1)「"納入数発表できぬ"」、(1)「延分納願は一八九」となっている。1092号もトップに(3)「東大全学生大会開く、"学問の自由を守れ"」、当局に自治権の確認を要求」、(2)「ファシズム反対を決議」、(1)「決議文(全文)」を載せ、(2)「経・弾圧に敵重抗議、委員の処分には絶対反対」ほか、「文」「一工」「理」の学生大会の動きを伝え、三段の「安田講堂前の学生大会」の写真添えてある。

事態は更に進展し、1093号のトップに(3)「文部省学生運動に見解表明、学生運動に強い制限、学生側"既定方針に変更なし"」と出、各学校長地方長官宛に発せられた次官通牒の内容が、(2)「"全国的行動は不可"」と七項目に分けて載せてあり、(1)「"学校独自の行動を"」、日高局長との一問一答」が付されている。これに対し、(2)「"責任は政府にある"」、全学連代表文部省に抗議」、(1)「明大通牒に反対」、(1)「当局の真意を糺す、全学連代表更に局長と会見」とあり、横(1)「弾圧に絶対反対」という十一日に行われた「アーケード討論会」の二段の写真も入れている。

1094号に②「全学連の方針・通牒撤回を要求、学内、外に闘争を展開」、
 (1)「法文化はしない、日高局長、新聞連盟に回答」、(1)「全学連で声明」、
 そして四段の囲みで②「通牒」をどうみる」という平野義太郎、田中元
 文相、上原商大学長の談話特集がある。1095号に①「北大全学会・声明を
 発す」、1096号に③「教育防衛関東学生大会、学問の自由を守れ」、両師
 範へ調査団派遣」とある。両師範とは既出の長野・秋田師範のことで、
 (1)「決議文(要旨)」も載っている。又、②「文部職組・教当局化を防
 げ」、次官通牒の検討にのり出す」、(1)「次官更迭は一応了解」とある。
 号外もトップは既出の(横)「大学法」③「学内民主化を促進しつつ、学園
 をあげて闘う、全学連中央委(京都)で決定」である。

その他の学外関係。1076号に①「引揚者救援護に出動[医科学生連]」が
 あり、1077号に②「全国医科連結成へ、全国国立大学医科連開かる」、(1)
 「医学生連合会発足す」「委員長清寺君談」がある。1079 1080号に①「全国工
 学生連盟準備会」、1081号に①「ミッション・スクール自治連結成」、1083 1084
 号に①「東北自治連会議」、①「全師学連を結成」、1091号に①「愛知自治
 連結成」、1092号に②「私学総連再び流会、学生戦線統一の必要は確認」、
 「▼…全学連不参加II高知高校」、1093号に①「二校不参加を表明、クリス
 ト教自治連もむ」、1094号に①「自治連結成へ、都新制高校準備会作る」、
 がある。

終刊号の「回顧と展望」の「学生運動」(K)は、三段の「東大法文
 経アーケードで氣勢をあげる早大生II十月十三日」の写真を入れ、②

「社会運動に発展、反ファッショ運動の一翼へ」と、日本教育の再編成、
 盟休が遺したもの、政治情勢の変化、次官通牒から弾圧へ、師範学校
 の封建性、反ファッショ運動へ、と小見出しを立てて、四月からの動
 きを要領よく纏めている。

学内の自治会関係。1076号の「学内ニュース」(既出)の「月四〇〇円
 の寮獲得へ」は、同胞援護会所有の阿佐カ谷学生寮のことであるが、1078
 号に②「五名釈放保留か、紛糾する阿佐カ谷寮問題」と出る。学生を追
 い出して売却するといふので、泊まり込んだ東大生十七名が全員検査
 されたといふもので、次の1079 1080号に①「残るは厚生省移管、五名は不起
 訴の阿佐谷寮」と出ている。同号の「主観客観」はこれを取り上げ、学
 生の住宅難が原因であるが、学生側に慎重さが欠けていたこと、厚生
 省移管という解決に疑問があると指摘している。

1074号に②「学生団結の勝利、アルバイト職場の異変記」がある。通信
 社の学生アルバイト十三名が不当蹴首されたが、自治会の応援で、全
 要求が通ったという明るいニュースである。1082号に②「定期二倍帰省
 五割引、丸一年の交渉に最初の成果」があり、①「交渉一年の経過」と
 いう中央委員の文・直井君の談話がある。然し、次の1083 1084号に②「帰
 省割引現行通り、自治会は対策を協議中」と出ている。現行は二割引
 きであるが、1087 1088号に①「学生五割通る」とある。

1089号に②「東大自治会中心に、新聞設立準備委員会生る」、1093号に東
 大・中央委員、総長と会見、学生新聞と新制大学問題で、1095号に②「東

大・学生新聞は学生に、中央委声明書発表、天下りU・P粉砕へ、(1)「強力に準備を」、106号に(1)「割当庁で承認すれば、総長、新聞準備委に言明」とあるが、これらは次回の本社改組問題の時に説明することにした。1095号には(2)「委員に「始末書をかけ」、面会を避ける南原総長」もあり、1096号に(1)「総長への公開状発表か、東大中央委」、(1)「学部細則撤回要求、東大中央委で見解発表」がある。

次に各学部会。1073号に(1)「農芸化学科に協議会」、1076号に(1)「二工自治会総辞職」、(1)「法・除籍処分に対抗」、「文」(学生大会)、1093号に(1)「二工、延納・分納・免除は自治会を通じて」、1094号に(1)「第二回緑会大会」、これは次の1095号に(2)「天体の運行を見つめよ」緑会大会で芦田先輩の「説示」と報告され、「教示する芦田先輩」という一段半の写真が入れている。同号に(1)「大学出版会に反対、文・学生大会」、1096号に(1)「経・自治権は認める、教授学生交渉会」、(1)「教授に共斗申込み、経・学生大会」がある。これは、大学法案と次官通牒についてである。

学内団体。1068号に半段の顔写真を入れて(2)「当然のこと」、出教授共産党へ、があり、出教授と文・K君の談話が載せてあり、(1)「細胞公認さる」(沖浦君談付き)が続いている。1071号に(2)「東宝問題に渦巻く東大」がある。「東宝争議激励の会」の立て看板、舞台、入口の基金カンパ、の三枚の写真を組み合わせ、講演や映画の後、東大細胞の提案で「東宝映画を守る会」が結成されたことを報じている。同号既出の(2)「文学部学生大会」の終わりに(1)「東宝労組にメッセージ」もあ

り、(1)「青年文化会議で東宝懇談会」が続いている。本社も「東宝映画を守る会」に参加し、座談会を開いて同号の二面に「東宝問題の所在を製作側に訊く」として報告し、以後その終結まで追及した(署名論文の映画の項参照)。

この東宝問題について、文化会、映研への批判は「音叉」の項でも触れたが、これを契機にして学内団体の間の対立が表面化することになる。まず、1073号に(3)「東大民主文化団体協議会結成へ、十七日・廿一団体に準備会」、1074号に(1)「民文協」発足へ、二十文化団体が参加」と出、もう一つ、1075号に(2)「東大に自治擁護連盟、参加十九団体で反共声明」、(1)「釀金運動を提唱」と出る。これは自治会文化会の有志が発起人となり、反共的な趣意書を配り同志をつのっているというもので趣意書の要点が載せてあるが、本社も非難の対象の一つである。1076号に(2)「東大・自治擁護その後」があり、(2)「授業料問題には影響なし」、(1)「経・連盟の解散を要求」、(1)「文・連盟の責任を追及」、「▼::Y M C A」(全然無関係)、(1)「反共団体ではない」(一部委員の声明書)、(1)「一問一答」(参加した経友会委員と)、(1)「吉田総裁東大へ」と続けて、七段の囲みに纏めてある。そして1077号に、関与していないという(1)「YMCAで声明」もある。

更に教育復興闘争が進展する中で、1092号に(1)「平和と自由を守る、民主主義学生同盟結成へ」があり、1093号に(2)「次官通牒を反駁、民学同、次官宛通牒を発す」と(1)「通牒全文」が載せてある。(1)「新人会で声明」

もあり、1094号に(1)「反ファッショ戦線統一へ、東大に民主団体の共闘組織」と出る。そして、号外に三段ボックスで(2)「文化会終に大分裂」と出ている。

その他、1071号に(1)「委員半数改選(文化会)」、1072号に(1)「民科で機関紙発行」、1073号に(1)「社研五月のプラン」、(1)「ソ研連続講座開く」、1077号に(1)「社研・歴研、資本主義分析の講座」、1078号に(1)「民科で「学術通信」刊行」、10791080号に(1)「学生ソ研連発足す」、1081号に(1)「民科東大で懇談会」、(1)「夏の学校」、これは学生文化指導会主催、自治会後援で開くもので、10821083号(1)「東大夏の学校盛況」という写真入り三段の囲み記事があり(写真は二段の「学生プロフェッサーの講義」、1089号に(2)「夏の学校・世代がつなぐ教育、講義は下手・熱心に誘われる」と、生徒、講師、授業、に分けて実態が報告されている。1093号に(1)「東大細胞連続講演会」、(1)「文学哲学講座(文化会)」、1094号に(1)「民科・東大細胞一」、1095号に(1)「10月30日、民科東大発足大会」がある。

青年文化会議は既出の東宝問題の他、1072号に(1)「民族文化を守れ、青年文化会議で声明」がある。

大学新聞連盟。1077号に(1)「日本学生新聞協会生る」、これは関東と関西の新聞連盟が中心となって全国的組織を作ろうというものの、1083号に(2)「六大学新聞・毎日を追わる」、これは印刷のことである。1094号に既出の日高局長の回答があり、終刊号の「回顧と展望」の中に「学生新聞」の項を置き、(春山)が、(2)「強い封建的束縛、自主確立に大学新

聞連盟動く」と、問題を整理している。

【厚生運動】

1067号に(2)「戦い拓く学生職場、学生自立厚生団体の現状」(R・H)という新年度に当たっての八段囲みの紹介記事がある。取り上げられているのは、学徒厚生協会、学生互助会、学生自活会、学徒実践同盟、である。1070号には「学生運動クロニクル」として、七段囲みで(2)「真の学生運動へ、厚生運動」(A・Y)がある。

1072号に全国学校協同組合連合会の(1)「ノート配給適正委員会」、1077号に既出の(3)「自治運動厚生運動の提携なる」に続いて、(2)「全協連・七月中旬に総代会」、1078号に(3)「教育ノートの荷受権を学生の手へ、全協連関東地方本部会議」、当時教育ノートは配給制であったから、これは大問題で、文部省、商工省、東京都の関係者の談話が取ってある。そして1081号に(2)「京都では成功、ノートの配給を学生の手で」と出ている。

10831084号に(2)「汗にかせぐ学生達、選んではいられぬ」、筋肉労働も辞せぬ今年の学生」という、学徒援護会、学徒厚生協会、東大、早大のアルバイトの報告がある。10851086号に(2)「協組の現状と批判、発展はこれから」(A)という地方別の展望があり、1089号にも(2)「打開される下宿難、全国学生会館設置の現状」(A)という七段囲みの報告がある。

同号には(2)「(仮称)K・T・L連絡協議会生る」もある。これは協同組合、食堂連合会、図書協会の協議会で、次の1090号には、これに全学連や他の厚生団体も加えて(2)「厚生運動の統一へ、学生団体生活協

議会社結成近し」と出ている。全協連の阿部理事の談話も載っているが、加藤寛から引き継いだ二期生の阿部陽三がこれらの中心にいたことは言うまでもない。同号の「主観客観」もこれを取り上げ、今までの失敗を参考に「健全な成長をとげることを祈る」としている。同号には、

(1)「全協連・関係官庁に請願、ノート問題その後」もあり、1094号に(1)「全協連・全国理事会」と予告が出て、号外に(2)「学校協組法人化へ、学校協組連全国理事会終る」とその報告が載っている。終刊号の「回顧と展望」では「厚生運動」として、(2)「運動の岐路に近づく、生活協議会で真けんな討論」と、(Y・A)が、横の連合へ、文部省の無能、指導原理がない、資本の荒波にさらわれるな、生活協議会の誕生、の小見出しを立てて意欲的に纏めている。

学内の協組。1075号の「音叉」に「協組の自己批判、東大協組理事・箕輪成男」があつて、新年度の抱負が語られている。1076号に(1)「協組ニュース」(設立二周年記念大会、第五回臨時総会)、1077号に(1)「一食を学生の手」に、1078号に(1)「第五回臨時総会」、1079 1080号に(1)「第四期決算報告」、(1)「協同組合研究会」がある。1082号に(2)「東大協組二カ年の歩み」(箕輪)という八段囲みの報告がある、(2)「資本構成は健全化、連合体と提携の必然性」が見出しで、貸借対照表等三つの表が付けられている。同号に(1)「協組・夏休の計画」、1083 1084号に(2)「一食獲得に成功、九月から協組が運営」、(1)「三食外食者の登録、月遅れは無効、帰郷者は御注意」、1087 1088号に(1)「一食の受渡完了、十月前後に開業」、1091号に(2)

「協組理事会・出版部」分離でもむ、今後は準備委で協議」、1093号に(2)「天下り案は遺憾、協組、大学出版会に強硬声明」(1)「声明書要旨」、1094号に(1)「東大協組理事会」があるが、終わりの四つはこれも本社の改組問題の項で取り上げる。

学内の職組。1077号に(2)「学生と共同闘争へ、東大職員組合で大会決議」、(1)「図書館職組・婦人部で講演会」、1083 1084号に(1)「東大職組スト」、(1)「経営協議会生るか、東大附属医院もめる」があり、(2)「看護婦生活の実相」(生徒の日課、自治会は生れたが、学生か労働者か? 看護婦として)が八段の囲みで(2)「職組と共に立上るか、働き疲れて月給一九〇円」(DM)の見出しで載っている。1089号に、二段の会場の写真を入れて(1)「東大職組婦人部結成さる」、1095号に既出の(2)「東大職組で声明」(大学法)がある。

【適格審査】 1067号に(1)「末弘博士追放か?」、1068 1069号に(2)「末弘博士をめぐる、中審委の判定は妥当か?」があり、顔写真を入れて(2)「大学の講義はしたい」という博士の談話、(1)「特免審査とは(解説)」がある。1078号に(1)「適格審査、再審も一段落」、1085 1086号に(1)「中教委・末弘博士再審査」とあり、中教委答申要点、末弘博士反証要旨、傍証、が載せてあり、「主観客観」も三年越しのこの問題を振り返っている。1091号に(1)「高柳教授適格に」がある。

署名論文

この期の南原総長の演述は、1067号の「職業の倫理、卒業式に於ける演述」、1068 1069号の「学問と大学、入学式に於ける演述」、1075号の「一つの大学——“One University”——、開学記念日における演述」、1092号の「人類への奉仕、卒業式における演述」、の四つである。前の二つについては、1070号に服部之総の「小市民的党派性、南原総長の演述を読んだ」という批判が載せてある。服部は、二つの演述の中で使われている「主体性」という語に焦点を定め、現在この語が、“大げさに言えば世界の反共思想戦線の、アップ・ツー・デートな日本版”として通用している事実をあげ、“新ファシズムの萌芽”に直結していると警告している。再び政治的季節を迎えて、編集部も総長の樂觀的な観念論が逆にマイナスに作用し始めていると危惧していた。又、記事の中でも触れたように、1081号の二面は「教育復興闘争への立場」を特集しているが、「総長説示」に対し、種村孝と、真下信一等三名連記の論文を載せている。種村は東大職員組合の執行委員長で、この文章が“執行委員会の承認を得たものであることを付言する”とあり、三氏連名のものには、“この小論は三氏が市民としての今回の闘争に対する見解を討議の後まとめたものである”と註がしてある。そして次の1082号には、石母田正・倉橋文雄連名の「革新の力と責任、南原総長「説示」に寄せて」という批判文が載せてある。これは、総長の“教授会

至上主義的なアンシャン・レジーム”の基本姿勢を問題にして、責任を自覚した学生の奮起を促したものである。

この期は夏休みを挟んでいるので、特集も多い。その中でも、1068 1069号の「農業恐慌の実相とその対策」は二頁に亘る大座談会である。又、1079 1080号の二面殆ど全頁に、カナダ政府駐日代表E・H・ノーマンの「安藤昌益とその封建社会の批判」が載せてある。五月十八日、本社と時事通信社の共同主催で行われた講演会の速記である。

又、この期は映画評が賑やかである。専門家は朝日新聞の井沢淳、時事通信社の早田秀雄であるが、渡辺一夫、中野好夫、杉捷夫、和達清夫、等々に、作品を選んで書いて貰っているのが、大きな特色である。そして、映画評、演劇評には殆どスチール写真が使われている。それとともに、前期から目立ち始めたのであるが、特集を始め時評その他に、ふんだんにカットが使われているのも見逃せない。長谷川が『季刊大学』の装釘を受け持つ鈴木進と相談して、いつもデスクに用意してあるのを使っているのである。名前が紹介されていることもあるが、西尾善禎、須田剋太、鈴木新夫が常連であり、高木四郎、古茂田守介、川隅路之助、八津輛巳の名前も見られる。

なお、1087 1088（9・9）号一面に「本屋からのぞいた学生世相の断面」を寄稿した清水博氏は本郷三丁目の古書店清和書店主であるが、九月七日に腸閉塞で急逝された。三十七歳の若さで、この原稿が遺稿になった旨、「計報」が次の1089号に載っている。

この期の論文を今までのように整理して次に載せるが、南原演述は例によって冒頭に記してあるので省き、終刊号は次回で取り上げるので、今回は、二面の「大学法に反対する」と七面の「二つの世界」の特集のみを掲げる。

〔特集〕

☆座談会・農業恐慌の実相とその対策(1068 1069)

(出席者) 司会・平野義太郎、栗原百寿、大谷省三、山田勝次郎、

小池基之、川田信一郎

一、農業恐慌と農業危機

二、日本農業の商業的發展

三、いかに恐慌が現われているか

四、農村金融と農民負債

五、資本主義的發展の可能性

六、恐慌の具体的対策

深谷 進 鍵は農組の闘争、農業協同組合設立の方法

☆E・H・ノーマン 安藤昌益とその封建社会の批判(1079 1080)

◇反封建思想の歴史 ◇自然真営道の発見 ◇安藤昌益の人と性格

◇昌益の時代の背景、農民の窮乏と町人の隆昌 ◇権威と伝統の否定

◇自然中心の社会思想 ◇日本の学生諸君に、社会科学を学ぶ者の使

命(講演速記)

☆世界の動向(1079 1080)

西沢 富夫 東欧・国有化と双務貿易進む、外資への従属断って自主

的再建の道

宍戸 寛 朝鮮・南北統一は至難、自立せぬ南朝鮮に迫る窮乏

宮武 謹一 中国・“統一民主”成るか、新建設とアメリカの役割

福永 英二 フランス・政党置去って左へ、国民の体得した政治意識

☆第二国会の審議から(1083 1084)

大内 兵衛 予算・無力な政府と議員、彪大予算の審議成績

新島 繁 教育関係法・進歩勢力の結集を、教育ボス化への危機を

はらむ

平野 龍一 刑事訴訟法・実質的人権尊重を、刑事政策の実行が問題

辻 清明 行政組織法・潜む安易さと魔術性、行政組織法と官僚制

☆中日学生運動の道程(写真・京大事件デモと関東学生大会)(1083 1084)

鹿地 亘 中国・新しい五・四運動、深まる国際的持久的性格

菊池 謙一 日本・六月の紋章、(詩) 滝川事件の思い出

教育復興運動年表、教復闘争の経過(横)

☆緑蔭読書(カット・青すだれの句を焼き込んだ庭園の写真)(1083 1084)

吉川 春藻 (作並に筆) 青すだれ中に書をよむけはいあり

河盛 好蔵 ほんやくについて

服部 之総 平野義太郎・ブルジョア民主主義革命、遺産を如何に撰

取するか

川崎巳三郎 風早八十二・“資本論講座”を読む、気魄ある解説

中村 秀勝 松田智雄・近代の史的構造論、ドイツ精神の定型化

久保 亮五 高林武彦・熟学史、思惟変革の論理の鮮かさ

猪熊弦一郎 (絵と文) 物描く眼

小原 元 小田切秀雄・民主主義文学論、踏み固める大地

寺田 透 マチネ・ポエティックに、詩精神の暁 (マツ)

小原 敬士 日高明三・ジャクソニアン・デモクラシー、アメリカに

おける市民的自由の黎明

新聞 進一 佐々木信綱・原本複製梁塵秘抄

☆科学特集・災害と予防(1085 1086)

安芸 皎一 水害・全国民的問題、アメリカの洪水対策

宮村 撰三 震災・広汎な組織を、科学研究と社会的実践

石井金之助 防災行政・民主的機構を、過大な地方の負担

☆各国労働法と労働運動(写真・イタリア労働者の示威運動)(1087 1088)

石崎政一郎 フランス・労働立法の進展、「爭議調停仲裁制度」復活か

岡倉古志郎 アメリカ・期待は進歩党に、タフト・ハートレー法発効

一週年の回顧

竹中清之助 イギリス・弗獲得に労働強化、積極的な政府に労働者反撃

尾崎庄太郎 中国・著しい両区の対照、政府地区では法令も空文化

前野 良 イタリア・広汎な政治闘争へ、「罷業禁止」と労働者の動

向

☆芦田内閣は何をしたか(1095)

中野 好夫 墮地獄の罪過

川崎巳三郎 独占資本の確立、芦田内閣の経済政策

河口 一雄 他力本願の弾圧、芦田内閣の労働政策

対決姿勢を強化(河内光治)

☆大学法に反対する(1097 1100)

平野義太郎 学問の自由、国大法案の意味するもの

我妻 栄 大学の自治、東大案の狙い

(東大当局発表) 東大の新制大学

☆二つの世界(トルーマンとスターリンの写真)(1097 1100)

神野彰一郎 (マツ) アメリカ・独占資本支配の確立、膨大な生産力をいかに

回転させるか(自由経済への復帰、停滞から下降へ、労働攻勢の進展)

尾形 昭二 ソヴィエト・勤労への責任感とほこり、社会主義社会の

建設は進む(平和への強い希求、資本攻勢への対抗、米

英と対等の力)

英と対等の力)

〔講座〕

松井 清 為替レートの問題 1078

氏原正治郎 職階給制の本質 1082

大石 泰彦 ヒックス『価値と資本』 1083 1084

大谷 省三 シェーレの意味するもの 1085 1086

奥村 敏恵 構造物と「安全率」 1085 1086 (防災特集)

綿谷 赳夫 農産物生産費について 1091

〔時評〕

菅野 一郎 土壌学・ベドロジイの成立、土壌と社会様式の関係 1067

桑田 武夫 農林統計・農林統計の精密化、他部門との不均衡が疑問 1067

- 金子 雄一 地震探鉱・炭田開発に希望、生産機構近代化が急務 1070
 中原 和郎 海外科学・国民が資金を注ぐ、最近のアメリカの癌研究 1071
 弘法 健三 日本農業大会見聞記、予想外の盛会 1072
 丸尾 文治 農芸化学・微生物にも迫る、農芸化学会講演会を聴く 1074
 石田英一郎 8学会連合大会・在野有志の発表を、連合大会の意義について 1078

- 弥永 昌吉 数学会・世界学界との交流、漸く緒に著いた研究再興 1078
 大室貞一郎 教育時評・うんてるがんく 1078

- 仲 新 教育学・教育の実践と研究 1079 1080

- 小林 稔(編) 物理学学会年会評・少い本格的研究 1082

- 稲沼 瑞穂 科学史の研究と日本科学史学会、科学方法論の基礎 1090

- 古島 敏雄 史料蒐集保存の動き、研究の世代的な二つの方向 1090

- 前田 嘉明 心理学・実践性への反省、現代米国学界の動向をみて 1093

- 浅沼 靖 衛生昆虫学の新分野、砂糖のダニその他 1094

- 谷 一郎 物理・応用力学・学会連合の講演会、流体力学の諸問題 1096

- 豊田 武 人文科学総合大会の成果、総合研究の途開く(号外)

〔政治〕

- 森 五郎 一方的立場で押す、経済復興会議「解散」問題を鑿る 1073
 上杉重二郎 芦田内閣と日本の運命 1073
 山本 秋 独占資本の圧力、生活協同組合法を阻むもの 1079 1080
 信夫清三郎 腐れ縁の根絶を、昭和電工事件の本質 1092

〔法律〕

- 団藤 重光 軽犯罪法批判、とくに労働運動との関係 1075
 清岡 四郎 政令は有効か、効力に重大疑義、公務員法改正と国内法秩序 1085 1086
 安藤 敏夫 事業者団体法・国内資本の危機、守られるか日本経済の自主性 1085 1086

- 民主主義科学者協会法律部会特別委員会 ポ政令に基く「政令二〇一号」意見書 1089

- 内田 力蔵 演説会極度に制限、選挙法改正とその運営について 1090

- 熊倉 武 買弁官僚の強化、国家公務員法政府草案批判 1093

- 中村 哲 国際的な注視、国家公務員法改正のゆくえ(号外)

〔経済〕

- 水田 博 救いは協同組合化、外資導入と中小工業の将来 1070
 武田 隆夫 有名無実の民主化、財政制度はどう変ったか 1072
 中山 立平 電力社会化の途、民主的な運営指導機関の設置 1074
 松岡 盤木 経済自立は可能か、製鋼業と外資導入 1076
 遠藤 湘吉 安易な外資への期待、本年度予算案大綱のからくり 1077
 渡辺 佐平 対応手段か解決か、二つのインフレ収束策 1087 1088
 杉田揚太郎 根本的民主化を、金融制度改革の指針に就て 1089

〔労働〕

- 熊倉 武 サロン談議排せ、労働法改正と労働情勢 1068 1069

有泉 亨 慎重な運営を望む、生産管理と仮処分について 1076

風早八十二 人民闘争国会へ、新たな労働攻勢と政治危機 1078

☆座談会・土橋全通委員長に訊く 1091

(出席者)(司会)・戒能通孝、土橋一吉、清岡四郎、森長英三郎

逆行する官庁民主化、官庁労働者は官僚ではない

〔農 業〕

菅間 正朔 激しい富農の動揺、日農大会と農民運動の新段階 1096

〔世界の動向〕

神野璋一郎 戦争回避の努力、トルーマン声明とその意義 1067

前野 良 平凡党分裂が鍵、伊・人民戦線はなぜ敗れたか 1071

岡倉古志郎 アメリカ・労働攻勢のゴング、微妙な第三党運動との関

係 1074

武井 武夫 民主革命の完了、イスラエル共和国独立の意義 1077

小幡 操 平和への転換点、ベルリン問題をめぐって 1085 1086

穴戸 寛 着々再建進む北鮮、ソ連の撤兵と今後の朝鮮問題 1091

安田 正美 世界の平和運動について、ドンキホーテへの忠言 1093

坂内 富雄 フランス・マ計画に重大障害、飽きた中道政治、激化する

左右の対立 1094

穴戸 寛 迫る経済的荒廃、韓国の反乱とその背景 1096

岩村三千夫 外国援助の限界、国府軍敗北の必然性(号外)

〔社 会〕

服部 之総 小市民的党派性、南原総長の演説を読んで 1070

出口 勇蔵 時評・社会科学における型 1077

杉本 俊郎 社会科学辞典について 1087 1088

林 健太郎 新入生諸君に、懷疑から真理へ 1067

丹下 健三 新入生諸君に、科学と人間と 1068 1069

出 隆 学生諸君に訴う、智恵の女神は武装していた(文責編集部)

1077

神田 順治 春のリーグ戦を見て 1078

清水 博 本屋からのぞいた学生世相の断面 1087 1088

神田 順治 秋のリーグ戦を前にして 1090

民主主義科学者協会幹事会 学問の自由擁護のための声明書 1079 1080

☆教育復興闘争への立場 1081

南原総長説示(要旨)

種村 孝 学生の同盟休校と教職員組合の立場

真下信一・飯塚浩二・南 博 民主社会の常識

石母田正・倉橋文夫 革新の力と責任、南原総長「説示」に寄せて 1082

☆各国学生の組織と運動

島田 政男 中国・弾圧の嵐に抗し、世界学生運動の分岐点 1091

岩田みさこ ソヴェト・人民と結んだ勉強、どこが日本とちがうの

か(文責編集部) 1095

☆美濃部達吉博士を追悼す 1076

山之内 一郎 信念の公法学者

奥山 信一 毅然として右翼を排す

〔哲 学〕

小松 摂郎 人間解放の正道へ、主体性論争の回顧と批判 1092

森 有正 吸収されぬ自我、実存主義哲学の真課題 1095

〔科 学〕

渡辺 定 BCGも効いて? 嬉しい昨年の死亡率減少 1073

福田 信夫 礼文島日誌抄、観測隊漂流 1076

小林 芳人 カビから出る熱、粗悪静脈注射液の検討とその根絶 1079 1080

野村 健一 科学研究と予算 1087 1088

河村 龍馬 応用力学会 1087 1088

八杉 龍一 ソヴェト・科学における政治性、生物学界の「粛正」問題 1091

〔学術体制〕

拓植 秀臣 大衆の力で平和を、新学術体制の出版に当って 1071

☆教育委員の資格(文責編集部) 1090

岩間 正男 実状に明るい人

産田 治衛 教育と教育委員

〔遮断機〕

山崎 謙 翻訳と社会道義 1068 1069

宮沢 俊義 管弦楽団とオペラの公営 1072

松浦 健三 陳腐な分裂 1073

上野 省策 新しい絵 1074

牧瀬 恒二 二つの力、授業料値上問題について 1075

吉沢 忠 日展問題の本質 1076

鈴木 東民 農民組合とボス 1077

影山 三郎 横眼の批判 1078

吉野源三郎 追放とジャーナリズム 1079 1080

松本新八郎 日本文化をまもる会 1081

田辺 典夫 組織には組織をもって 1082

駒田 信二 作家の誠実 1087 1088

落合麒一郎 科学者の平和擁護 1089

鈴木 進 秋の美術 1090

三宅 善三 秋の交響楽 1091

尾高 朝雄 米人文科学顧問団の来訪 1092

戒能 通孝 首切り談義 1093

野村 泰造 新聞のつとめ 1094

まつしま・えいichi 『潮流』と『日本評論』 1095

高木 右門 司法ファッショということ 1096

「文 化」

布施 辰治 社会時評・強い学童と母親達、朝鮮人学校問題調査を終えて 1075

内村 祐之 精神病から見た世相・盲従する悲劇的心性 1085 1086

小口 偉一 信仰の自由から見た世相・俗信の世界を覗く 1085 1086

上林 澄雄 アルチストとアルチザン 1085 1086

桑原 季隆 市民の意思の筋金を、ボスの温床「町」の解剖 1090

牧瀬 恒二 文化反動に抗して、第二回全日本民主主義文化会議の開

催 1091

「文 学」

原田 義人 文芸時評・創造への誘い 1070

小田切秀雄 平和を守る為に、文学者は何を為すべきか 1075

中村 光夫 文壇無用論、世界を相手の文学を作れ 1076

中島 健蔵 太宰治のこと 1082

原田 義人 虚構のさすらい 1082

瀬沼 茂樹 文学的風土、三大党派・えとせとら 1087 1088

吉田 精一 比較文芸学・開かれる国際的視点、真の近代科学の形成

へ 1089

矢内原伊作 文芸時評・定型詩の問題、三好寺田両氏の批判について 1093

なかの・しげはる 文化時評・全集を編む者の良心、『小林多喜二全集』

の編集にふれて 1094

対決姿勢を強化（河内光治）

「ジャーナリズム」

木村 三郎 日刊新聞評・客観的な態度とは？ 東宝問題をめぐって 1075

市川 米彦 日刊新聞評・責任を果しているか、一般紙と機関紙 1077

美作 太郎 ジャーナリズム批判・外電の扱い方、国際問題の床屋談

義 1079 1080

園田 二郎 出版機構の封建性、中央公論社の事件にふれて 1081

野村 泰蔵 日刊新聞評・唄を忘れたカナリヤ 1083 1084

畑中 繁雄 復活する商業主義、ジャーナリズムの自由を守れ 1087 1088

小野 秀雄 新聞研究室懐古 1092

「映 画」

☆東宝問題

座談会・東宝問題の所在を製作側に訊く・明白な重役陣の反動性 1071

（出席者）山本薩夫、楠田清、山内教授、小田切秀雄、桜井恒次他

井沢 淳 優れた芸術性、東宝第一組合作品 1071

中村 哲 バーバリズムとの闘い、東宝問題とアカデミズム 1072

亀井 文夫 東宝問題の新転回と芸術家の立場 1089

伊藤 武郎 東宝問題の残したものの、組合の飛躍的成長、解決の成

果は将来の闘争に 1096

井沢 淳 面影・中途半端な低俗さ 1067

早田 秀雄 女・受胎・浅薄な愛慾の追求

〃 酔いどれ天使・最上位の作品 1071

☆ふたつの文学映画 1072

杉 捷夫 カルメン・野性描出に今一步

寺田 透 山師ヴォートラン・失われた人間喜劇

桜井 恒次 わが愛は山の彼方に・清冽な印象 1073

内山 敏 ニュース映画評・素材をして語らしめよ 1075

中村真一郎 ゴラの生涯・平和擁護を大衆に呼びかける 1076

中野 好夫 逢びき 1077

井沢 淳 我等の生涯の最良の年 1078

渡辺 一夫 眠れぬ美女・こわくないソ連 1079 1080

和達 清夫 富士山頂・物足りぬ科学映画 1081

井沢 淳 蜂の巣の子供達・賞賛、然し…その限界は？ 1087 1088

畑中 政春 愛のちかい 1089

井沢 淳 HENRY V. 洩れる溜息 1092

早田 秀敏 二人の監督・風の中の牡鶏、我が生涯の輝ける日、現実

主義者と野心家、小津・吉村両監督の近作 1094

井沢 淳 王将・封建的カプセル 1096

渡辺 一夫 求婚・奇妙な放射線(号外)

〔演 劇〕

永井 智雄 「火山灰地」上演後記、ひびきが弱い… 1070

下村 正夫 新劇と演技、「自己批判」の在り方、永井智雄氏にたずね

る 1074

滝崎安之助 民芸「たくみと恋」、ドイツ市民階級の記念碑 1074

瓜生 忠夫 新協劇団「桜の園」、小山内演出に挑む 1076

〃 俳優座「女学者」 1078

〃 文化座「その人を知らず」、好ましい熱の演技 1081

青山 敏夫 民芸「女子寮記」、劃期的な職場作家の進出 1087 1088

〃 二つの演劇(新協劇団「ミスター人類」、俳優座「黄色い部屋」、インテリ崩解感覚 1091

〔美術、音楽〕

鈴木 進 文化時評・日本美術総合展を見て 1068 1069

寺西 一郎 音楽時評・戦後楽壇の新人 1073

丸山 鉄雄 音楽と経営・悪税と高い出演料、何が音楽の大衆化を阻むか 1075

〔随想、詩歌〕

石川 光春 公孫樹 1077

吉瀬 宏 九州の旅(俳句六句) 1087 1088

東大短歌会 卒業感懐(短歌四首) 1091

〔絵、彫刻〕

内田 巖 (絵と文) 霧社族の土器 1085 1086

☆(絵と文) 真夏の大学の夢、未来の大学、え…Y・A 1085 1086

プロローグ(Q)、理想の講義(渡辺一夫)、民衆と大学(Y)、教授

の生活 (LW)、学生生活 (Z)、文京地区実現 (H)、研究室 (O)・

K)

久保 守 「文芸」のカット・帆立貝の中の裸婦 1087 1088

菊池 一男 (彫刻) 青年 (新制作派展、写真) 1090

〔書 評〕

尾高 朝雄 宮沢教授「銀杏の窯」を読む、前菜の味 1067

殿木 圭一 ジャーナリズム入門・手頃な手引書 1067

まつしま・えいいち 竹内理三・平安遺文、実証研究の粹 1068 1069

近藤 洋逸 三田博雄・数学史の方法論、古代数学に於ける論理性の

発見 1070

豊田 尚 森田優三・統計学汎論、地域標本法の基礎付けを 1072

山崎 正一 出隆・藤川覚訳・フォイエルバッハ論、面目一新の良訳 1072

(A) 高沖陽造・欧州文芸思潮史 1072

野間 宏 富士正晴編・竹内勝太郎詩集『明日』、省らるべき詩集 1073

小西 甚一 新聞進一・中世民謡集・歌謡史の研究、清新多彩な労作 1074

宮川 実 山田勝次郎・地代論争批判、実践的な問題解決 1075

西村 哲夫 雑誌・唯物史観、"観る者"の立場 1077

玉城 肇 川島武宜・日本社会の家族的構成、生々した現実問題へ 1078

石母田 正 渡辺義通・古代社会の構造、古代史研究の礎石 1079 1080

中島 貞雄 天野清選集1・量子力学史、発展の論理を解明 1078 1080

福原麟太郎 中野好夫訳・ジュリアス・シーザー、原典への深い理解 1082

対決姿勢を強化 (河内光治)

鳥居 敏雄 梅沢浜夫・ストレプトマイシン、適当な指針書 1082

まつしま・えいいち 林文雄・美術とリアリズム、新しい美術の立場

1083 1084

玉木 英彦 朝永振一郎・量子力学、透徹せる論理性、ゆきとどいた

解説書 1085 1086

平瀬巳之吉 政経研編「恐慌の理論」にふれて、二十代の一関門 1085 1086

小池 基之 人文科学委編・土地制度研究、示唆深い問題提起 1085 1086

宝月 圭吾 中村吉治・土地制度史研究、個別的着実な研究 1085 1086

椎名 麟三 野間宏・崩解感覚、悲劇的な世界像 1085 1086

五味 智英 長谷川泉・近代への架橋、着実な里程標 1087 1088

杉田 元宜 「自然弁証法」のこと、有沢氏の新訳を読んで 1087 1088

井上 健 武谷三男・量子力学の形成と論理・第一巻・原子模型、強

力なる方法論 1087 1088

岡倉古志郎 田宮・芝・佐伯共編・世界民主革命年表、大過のない労

作 1090

島田 政雄 鹿地亘・中国の底力、真理は具体的 1090

(無署名) 窪田啓作・掌 1090

榎 一雄 広島文理大編・東洋社会、着実な前進 1090

杉村章三郎 美濃部博士遺稿・行政法序論、最後を飾る好作品 1092

荒 正人 埴谷雄高・「死霊」について、現代の錬金術師 1093

平川 彰 中村元・東洋人の思维方法、東洋文化解明への新道 1093

(A)

日本ジャーナリスト連盟編・現代新語辞典 1093

戒能 通孝

加古裕二郎・理論法学の諸問題、市民社会の究明、法学とマルキシズムの結びつけ 1094

渡辺 格司

相良守峯・ドイツ中世叙事詩研究、精神的な意義 1094

野々村一郎 川崎氏の新著について、戦後経済の正しい分析 1095

☆二つの日本史研究書 1096

永原 慶二 西岡虎之助・民衆生活史研究、学界未使用の資料駆使

稲垣 泰彦 佐藤進一・鎌倉幕府守護制度の研究、滲む堅実な実証

態度

季刊大学 第六号 (23・9・10)

☆特集・世界経済と日本経済

友岡 久雄 世界経済と日本の再建

大橋 静一 外資導入と労働問題

豊崎 稔 外資と中小工業

谿 正夫 日本農業の展望

土屋 清 外資・為替・通貨

☆特集・戦後世界学界の展望

神野璋一郎 戦後アメリカ経済学界の展望

今田 恵 現代心理学の動向、アメリカ心理学を中心として

久保 亮五 アメリカ物理学界の方向、物性論を中心として

増山元三郎 アメリカに於ける推計学の進歩

矢木 栄 アメリカ化学工業技術の進歩

宮原 誠一 アメリカ教育学の最近、その若干の動向

☆座談会・学界刷新の諸問題・科学の社会化と研究体制について

(司会) 平野義太郎 (出席者) 秋元寿恵夫、丹下健三、富永五郎

古島敏雄、宮村摂三、森口繁一

☆農村ルポルタージュ・割地慣行の共同調査

(長野県上高井郡豊須村相之島)

序 説・古島敏雄

現 状・加藤一郎

歴 史・山口啓二・永原慶二 村落構成・潮見俊隆

農民運動・内山政照 農地改革・加藤一郎

鈴木鴻二郎 資本論渡来以後(三)

風巻景次郎 孤絶の自我

岡本 潤 (詩) 花

[講 座]

大河内一夫 ウェーバーとマルクス

(未完——次回完結)